

令和2年度 文部科学省委託「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」

# ブレンディッド・ラーニングによる 教員研修履修証明プログラムの開発

## 成果報告書



和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻（教職大学院）

令和3年3月

# 和歌山大学教職大学院

ブレンディッド・ラーニングによる

# 教員研修履修 証明プログラム

教職大学院の一部の講義を  
オンライン受講できます！

自主研修の機会や  
教職大学院にご興味のある方  
など、どなたでも受講可能です！

「ブレンディッド・ラーニング」とは、オンデマンド受講（収録映像の視聴+SNS 等による交流を含む）+オンタイム受講+対面指導（場合によっては訪問指導）を組み合わせる受講形態です。

## 学びのネットワーク

自宅で受講



職場で受講



## 和歌山大学



共同リサーチ



教職大学院にて



近隣の仲間で  
受講・ワーク等

県内の先生方を対象に、教職大学院の講義を体験受講できる機会となります。1講座=90分×5回を基本として、オンライン（リアルタイムでの遠隔講義・演習を1~2回程度）・オンデマンド（個人での映像視聴受講）・学内による対面講義（1~2回程度）を組み合わせる実施します。

- 全校種、全役職（教諭以外に講師や管理職も含む）が受講対象者です。
- 本年度（2020年）は試行期間として無料で受講できます。

まずは、裏面から「登録」をお願いします。

# 開設科目のご案内

各科目の詳細は <http://pde.edu.wakayama-u.ac.jp/> を参照してください。

## 第一期

講座名	概要	講義担当者
生徒指導力・学級経営力UP講座	「3つの生徒指導」「課題のある子を支援する学級集団づくり」「いじめ問題と指導」「被虐待児への支援」「これからの生徒指導・学級経営」の5つのテーマについて学びます。生徒指導・学級経営でお悩みの方、解決のヒントを探りませんか。	谷尻 修
若手教員への指導力UP講座	校内で増えつつある若手教員へ、どのように指導したらいいのか、支援したらいいのか、困ることはないですか？あるいは、初任者の校内指導教員となった先生へどのように指導するようにアドバイスしたらいいのかお悩みではないでしょうか？当講座では、初任者や若手教員の特性を踏まえ、指導のための実践力の向上を目指します。	宮橋小百合
GIGAスクールにおける授業実践“導入”講座	GIGA スクール構想による新しい授業が開始されますが、備えは万全でしょうか？。当講座では、タブレット端末一人一台体制における「導入時」に配慮すべき情報モラルやセキュリティ、児童生徒に必要な情報スキル等について考えてみたいと思います。タブレット端末活用初心者歓迎です。	豊田 充崇
新学習指導要領に対応した新しい道徳授業実践講座	「特別の教科 道徳」が開始されたものの、これまでとあまり変化がない、どう展開・評価していいのかわからない等の声が教育現場から聞かれます。そこで、改めて「特別の教科 道徳」を基礎基本から捉えなおす講座を設けます。新しいビジョンをもった「道徳」の実践的指導力を向上させる講座です。	伊澤真佐子
学校の安全UP講座	安全の基本的な考え方を習得し、事件事例の検討を行うことで、学校安全への組織としての取り組みを学びます。さらに、自校の実態から検討し、危機管理マニュアルの改善案をまとめて、自校の安全力UPを図りましょう。	添田久美子

■ 募集期間：11月1日～30日まで ■ 実施期間：12月～2021年1月まで

※第二期は正式に決まり次第、メールにて連絡します

■ 登録方法（個人でご登録ください） .....

まずは、以下のアドレスに電子メールを送信してください。  
(ご登録いただく電子メールアドレスから送信してください)

**pde-edu@ml.wakayama-u.ac.jp**

電子メールには以下の情報を記載してください。

タイトル(題名)：履修証明プログラム申し込み

本文：○○学校 (役職名) (氏名)

※原則、平日であれば即日もしくは2日程度で確認の返信をさせていただきます。  
その後、受講希望科目等を記入いただきます。

■ 準備いただくもの .....

インターネットに接続しているウェブカメラのついたパソコンが必要です。iPad等のタブレット端末でも可能ですが、資料の参照等でPCを利用する場面もあります。  
※受講者の皆様にはオンライン授業システム(Teamsもしくはmoodle)にログインしていただきます。事前に習熟期間等を設けますので、初めての方でも大丈夫です。

# 和歌山大学教職大学院

教職大学院の一部の講義を  
オンライン受講できます！

## ブレンディッド・ラーニングによる 教員研修履修 証明プログラム

第二期  
募集開始

「ブレンディッド・ラーニング」とは、オンデマンド受講（収録映像の視聴+SNS 等による交流を含む）+オンライン受講+対面指導を組み合わせて実施する受講形態です。

### 学びのネットワーク

自宅で受講



職場で受講



### 和歌山大学

共同リサーチ



教職大学院にて



近隣の仲間で  
受講・ワーク等



県内の先生方を対象に、教職大学院の講義を体験受講できる機会となります。1講座=90分×5回を基本として、オンライン（リアルタイムでの遠隔講義・演習を1～2回程度）・オンデマンド（個人での映像視聴受講）・学内による対面講義（1～2回程度）を組み合わせて実施します。

- 全校種、全役職（教諭以外に講師や管理職も含む）が受講対象者です。
- 本年度（2020年）は試行期間として無料で受講できます。

まずは、裏面から「登録」をお願いします。

# 開設科目のご案内

各講座は「オンデマンド・オンライン・対面を合わせて5コマ分」となります。  
各科目の詳細は <http://pde.edu.wakayama-u.ac.jp/> を参照してください。

## 第一期

講座名	主な対象者	概要	講義担当者
新しい生活様式を 意識した小学校 外国語教育 指導力UP講座	主に 小学校教員 が対象です	30年近くかけてやっと導入され、「聞く」「話す」を中心に意味のあるやり取りを目指してきた小学校外国語教育。このコロナ禍において指導や評価などにお悩みではないですか？当講座では、先行して研究推進してきた独自カリキュラムや教材開発の成果と課題を踏まえ、新しい生活様式を意識した小学校外国語教育の実践力向上を目指します。	藤本 典子
歴史授業力 UP講座	主に小学校 教員ですが 中学校社会科 教員も歓迎です	児童・生徒が「おもしろい」「もっと知りたい」と思える歴史授業がしたいという先生方！「教材研究のコツ」「教科書研究のコツ」「授業構成のコツ」「授業展開のコツ」をテーマに授業改善の手立てを考えます。対面講義では「模擬授業(参勤交代)」を行います。「主体的・対話的で深い学び」が生まれる歴史授業へのカギを見つけませんか。 主な著書：『学習指導要領 2020 実現のための「新・教師力 20」』(小学館 2018) / 監修：ドラえもん社会ワールドなぜ？どうして？日本の歴史 (小学館 2019) 他、学習関連書籍多数を執筆。	深澤 英雄
「GIGA スクール」 に向けた 「情報モラル指導」 実践講座	全校種の 先生方が 対象です	「GIGA スクール」において、タブレット一人一台体制・自宅持ち帰りも想定した授業が開始されることになるかと思えます。一方で、既に家庭内でのネット・スマホ・SNS等の利用は進展しており、諸々のトラブル・依存症等の問題が生じていることも確かです。そこで、GIGA スクールの時代に相応しい「情報モラル」の指導における具体的な授業実践について既存教材・独自開発教材を用いながら学んでいただけます。	豊田 充崇
天文授業力 UP講座	小学校教員 及び 中・高校の 理科教員も 歓迎です！	理科の中でも子どもたちに人気だが指導が難しいと言われる天文分野について扱います。世界の天文教育が取り組んでいる「ひとつ空の下」「淡き青い点＝地球」「よりよき世界のために」というキーワードとそれに関係した教材案を紹介し、科学教育の観点から、はじめに星占いや宇宙人も扱ってみます。	富田 晃彦
【特別講座】 教職大学院 オンデマンド講義 ダイジェスト	全校種の 先生方が 対象です	当講座の第一期で実施した「オンデマンド講義」をダイジェスト版としてお試し受講できます。「道徳授業実践講座」「GIGA スクールにおける情報活用能力の育成」「課題がある子を支援する学級集団づくり」「若手教員への指導力UP-メンタリングとは？」等について、どの講座からでも、1つだけでも自由にチョイスしてお試し受講可能です。基本は、オンデマンド形式のみ(都合のいい時間に視聴する)になりますが、受講者の希望によって、オンライン上での質問対応やオンライン会議での直接会話が可能です。	教職大学院 教員各位

■ 募集期間：2月8日(月)～2月22日(月)まで ■ 実施期間：2月27日(土)～3月末まで

### ■ 登録方法 (個人でご登録ください)

まずは、以下のアドレスに電子メールを送信してください。  
(ご登録いただく電子メールアドレスから送信してください)

**pde-edu@ml.wakayama-u.ac.jp**

電子メールには以下の情報を記載してください。

**タイトル (題名)：履修証明プログラム申し込み 本文：〇〇学校 (役職名) (氏名)**

※原則、平日であれば即日もしくは2日程度で確認の返信をさせていただきます。

その後、受講希望科目等を記入いただきます。

### ■ 準備いただくもの

インターネットに接続しているウェブカメラのついたパソコンが必要です。iPad等のタブレット端末でも可能ですが、資料の参照等でPCを利用する場面もあります。

※受講者の皆様にはオンライン授業システム(moodle)にログインしていただきます。事前に習熟期間等を設けますので、初めての方でも大丈夫です。

※第一期で受講済みの方は、登録の必要はありません。申し込み講座名を記載してお送りください。

<<<<目 次>>>>

1. 「3つの形式」の講義形態について \_\_\_\_\_ p. 2-3
2. 開講講座一覧表（前期／後期） \_\_\_\_\_ p. 4-7
3. 募集方法 \_\_\_\_\_ p. 8
4. 広報体制について \_\_\_\_\_ p. 9
5. 担当者からの講座実施報告（谷尻 治） \_\_\_\_\_ p. 10-17
6. 担当者からの講座実施報告（伊澤真佐子） \_\_\_\_\_ p. 18-21
7. その他の講座について \_\_\_\_\_ p. 22-28
8. 受講者アンケートの実施について \_\_\_\_\_ p. 29-31
10. 申請書（様式1・2） \_\_\_\_\_ p. 32-39
11. 関連原稿（和歌山大学教職大学院紀要より） \_\_\_\_\_ p. 40-44

## 1. 「3つの形式」の講義形態について

- (1) オンデマンド形式：和歌山大学の e-learning システム (moodle) にて都合のいい時間に講義映像を視聴して自主学習をおこなう形式。
- (2) オンライン形式（リアルタイム）：ZOOM にて講師と受講者がリアルタイムにテレビ会議で実施する形式。
- (3) 対面形式：講師・受講者が和歌山大学に集合して通常の講義・演習を実施する形式。

※但し、オンライン形式での実施を録画しておいて、受講者が個別視聴したケースや、同様に対面形式の様子を録画して後日視聴してもらったケースもあった。また、対面形式であるが、その様子をオンラインで配信したケースもあるため、一概に上記の3パターンに分類できるわけではない。

前期は以下のような様々な形式の実施形態を試行した。講座の内容、設定した講座の流れ、受講者の意図、地理的要因、受講時間確保の要因など、さまざまな状況があるため、一概にどの組み合わせが最良かという判断は難しい。

最初に対面で会っているからこそ、その後のオンデマンドやオンラインに熱が入るし、講師の方との面識ができるからこそ、最後まで続けられるということもある。一方、オンデマンドで受講者の自由な時間で学べたからこそ、実施に対面でも学びたいというモチベーションを向上させた場合もある。

また、講師と受講者との1対1での交流ではなくて、受講者同士の横のつながりを構築するためには、やはり5コマの講義では不足しており、オンデマンド・オンラインでは受講者同士のつなげていくことは難しい。そのため、最初に会することが重要となる。

### ○前期（第一期）における4つの実施形式

- ・オンデマンド形式を受講後、対面・集合形式で受講する。
- ・オンデマンド形式を受講後、オンライン形式で受講し、対面・集合形式へ。
- ・オンデマンド形式を受講後、対面・集合形式で受講し、最後はオンライン形式で。
- ・オンライン形式で受講後、オンデマンド形式での受講を経て、最後は集合形式へ。

### ○後期（第二期）における基本パターン

- ・オンデマンド形式を受講後、対面・集合形式で受講し、最後はオンライン形式での実施を基本設計とした。

この形式が募集期間を長く取れること、オンデマンド形式である程度理解・趣旨を汲んだ上で対面・集合形式を実施するため、スムーズに展開できること等の利点があげられる。最後のオンライン形式は、オンデマンドや対面時に生じた疑問点を解決する機会とす

れば、講師側の準備負担も軽くなるという利点があるし、受講者側も最後にリアルタイムな交流ができる機会が設けられていることで、講座全体を通じての質問・意見をなげかけやすいといえる。また、受講者同士も一度対面しているため、ZOOM等のテレビ会議越しでも受講者間の交流や情報交換が可能になるためでもある。

なお、5コマ分を3つの実施形式（オンデマンド、対面、オンライン）にどのように割り当てるかについては、講師にゆだねている。しかしながら、せっかく大学にまで足を運んでもらえるということで、1コマでは物足りないため、対面実施日は全講師で2コマ分の設定となった。

よって、本学におけるブレンディッドラーニングにおける基本パターンとしては、「オンデマンド形式2コマ分・対面実施2コマ分（学内）・オンライン1コマ分」となったといえる。

## 2. 開設講座一覧表（全10講座）

（第一期／前期）

講師名	谷尻 治
講座名	生徒指導力・学級経営力 UP 講座
概要	「3つの生徒指導」「課題のある子を支援する学級集団づくり」「いじめ問題と指導」「被虐待児への支援」「これからの生徒指導・学級経営」の5つのテーマについて学びます。生徒指導・学級経営でお悩みの方、解決のヒントを探りませんか。
対象	若手教員・中堅教員向け
講義の パターン	オンライン⇒オンデマンド⇒集合形式
講義 日時	①②オンライン 12/26（土）9:10～12:20 ③オンデマンド 12/26（土）～1/10（日） ④⑤対面 1/11（月）9:10～12:20

講師名	宮橋小百合
講座名	若手教員への指導力 UP 講座
概要	校内で増えつつある若手教員へ、どのように指導したらいいのか、支援したらいいのか、困ることはないですか？あるいは、初任者の校内指導教員となった先生へどのように指導するようにアドバイスしたらいいのかお悩みではないでしょうか？当講座では、初任者や若手教員の特性を踏まえ、指導のための実践力の向上を目指します。
対象	中堅教員・ベテラン教員向け
講義の パターン	オンデマンド⇒集合⇒オンライン
講義 日時	①②オンデマンド 12/26（土）～1/10（日）2時限分の映像視聴 ③④対面 1/11（月）13:10～16:20 ⑤オンライン 1/23（土）9:10～10:40

講師名	豊田充崇
講座名	GIGA スクールにおける授業実践”導入”講座
概要	GIGA スクール構想による新しい授業が開始されますが、備えは万全でしょうか？。当講座では、タブレット端末一人一台体制における「導入時」に配慮すべき情報モラルやセキュリティ、児童生徒に必要な情報スキル等について考えてみたいと思います。タブレット端末活用初心者歓迎です。
対象	全ての教員向け（指導主事、ICT 支援員含む）

講義の パターン	オンデマンド⇒オンライン⇒集合
講義 日時	①②オンデマンド 12/1～12/27（日）までに2コマ受講 ③オンライン 12/26（土）1時限分 13:10～14:50 ④⑤集合 12/28（月）本学 2時限分 13:10～16:20

講師名	伊澤真佐子
講座名	新学習指導要領に対応した新しい道徳授業実践講座
概要	「特別の教科 道徳」が開始されたものの、これまでとあまり変化がない、どう展開・評価しているのかわからない等の声が教育現場から聞かれます。そこで、改めて「特別の教科 道徳」を基礎基本から捉えなおす講座を設けます。新しいビジョンをもった「道徳」の実践的指導力を向上させる講座です。
対象	全ての教員向け（主に小学校教員向け）
講義の パターン	オンデマンド⇒集合
講義 日時	①②③12/26（土）～1/10（日） 3講義分の映像視聴 ④⑤対面 1/9（土）13:10～16:20

講師名	添田久美子
講座名	学校の安全 UP 講座
概要	安全の基本的な考え方を習得し、事故事例の検討を行うことで、学校安全への組織としての取り組みを学びます。さらに、自校の実態から検討し、危機管理マニュアルの改善案をまとめて、自校の安全力 UP を図りましょう。
対象	中堅教員（管理職の方も受講可）
講義の パターン	オンデマンド⇒集合
講義 日時	①②オンデマンド 12/19～1/9 2講義分 ③オンライン 1/10 日曜日 10時～11時30分 ④⑤対面 1/23 土曜日 13時～16時

（第二期／後期）

講師名	藤本 典子
講座名	新しい生活様式を意識した小学校外国語教育指導力 UP 講座

概要	30年近くかけてやっと導入され、「聞く」「話す」を中心に意味のあるやり取りを目指してきた小学校外国語教育。このコロナ禍において指導や評価などにお悩みではないですか？当講座では、先行して研究推進してきた独自カリキュラムや教材開発の成果と課題を踏まえ、新しい生活様式を意識した小学校外国語教育の実践力向上を目指します。
対象	主に小学校教員が対象です
講義日時	オンデマンド配信（予定）：2月27日（土）～3月末まで視聴可能 対面講義日（予定）：3月20日（土）14：00～17：00 オンライン講義日：3月20日（土）の対面講義において受講者からのニーズを受けて後日に設定する。

講師名	深澤 英雄
講座名	歴史授業力UP 講座
概要	児童・生徒が「おもしろい」「もっと知りたい」と思える歴史授業がしたいという先生方！「教材研究のコツ」「教科書研究のコツ」「授業構成のコツ」「授業展開のコツ」をテーマに授業改善の手立てを考えます。対面講義では「模擬授業（参勤交代）」を行います。「主体的・対話的で深い学び」が生まれる歴史授業へのカギを見つけませんか。 主な著書：『学習指導要領 2020 実現のための「新・教師力 20』』（小学館 2018）／監修：ドラえもん社会ワールド なぜ？ どうして？ 日本の歴史（小学館 2019）他、学習関連書籍多数を執筆。
対象	主に小学校教員ですが中学校社会科教員も歓迎です
講義日時	オンデマンド配信（予定）：2月27日（土）～3月末まで視聴可能 対面講義日（予定）：3月20日（土）10:00～13:00 オンライン講義日：3月14日（日）13:30～（基本90分・最大2時間程度）※対面での事前指導として実施。

講師名	豊田 充崇
講座名	「GIGA スクール」に向けた「情報モラル指導」実践講座
概要	「GIGA スクール」において、タブレット一人一台体制・自宅持ち帰りも想定した授業が開始されることになるかと思えます。一方で、既に家庭内でのネット・スマホ・SNS等の利用は進展しており、諸々のトラブル・依存症等の問題が生じていることも確かです。そこで、GIGA スクールの時代に相応しい「情報モラル」の指導における具体的な授業実践について既存教材・独自開発教材を用いながら学んでいただきます。
対象	全校種の先生方が対象です

講義 日時	オンデマンド配信：(予定) 2月27日(土)～3月末まで視聴可能 対面講義日(予定)：3月27日(土) 13:30～16:30 オンライン講義日：3月27日(土)の対面講義において受講者からのニーズを受けて後日に設定する。
----------	---

講師名	富田 晃彦
講座名	天文授業力UP 講座
概要	理科の中でも子どもたちに人気だが指導が難しいと言われる天文分野について扱います。世界の天文教育が取り組んでいる「ひとつ空の下」「淡き青い点=地球」「よりよき世界のために」というキーワードとそれに関係した教材案を紹介します。科学教育の観点から、まじめに星占いや宇宙人も扱ってみます。
対象	小学校教員及び中・高校の理科教員も歓迎です
講義 日時	オンデマンド配信(予定)：3月1日(月)～3月末まで視聴可能 対面講義日(予定)：3月27日(土) 10:00～12:30 オンライン講義日：3月13日(土) 10:00～(基本90分)

講師名	教職大学院 教員各位
講座名	【特別講座】教職大学院オンデマンド講義ダイジェスト
概要	当講座の第一期で実施した「オンデマンド講義」をダイジェスト版としてお試し受講できます。「道徳授業実践講座」「GIGA スクールにおける情報活用能力の育成」「課題がある子を支援する学級集団づくり」「若手教員への指導力UP－メンタリングとは？」等について、どの講座からでも、1つだけでも自由にチョイスしてお試し受講可能です。基本は、オンデマンド形式のみ(都合のいい時間に視聴する)になりますが、受講者の希望によって、オンライン上での質問対応やオンライン会議での直接会話が可能です。
対象	全校種の先生方が対象です
講義 日時	オンデマンド配信(予定) 2月27日(土)～3月末まで視聴可能

### 3. 募集方法

前期募集については、以下のチラシを作成して、カラー裏表1枚で刷ったものを和歌山県下のすべての小・中学校に郵送した。その際に、各校の教諭の数を事前に調べ、管理職+教諭数分を封入し、学校長宛に全教員に配布いただけるように依頼した。

こういった案内チラシの類は職員朝会等で多数配布されるため、できるだけ目立つレイアウト及びシンプルに短時間で読めるものを意図して作成した。そのため、講義概要等は短くしておき、興味を持った先生方はウェブサイトで詳細を知ることができるように情報提供の方法を工夫した。

なお、受講者に、このブレンディッド・ラーニング講座の情報を何から得たかについてアンケートした結果、8割以上はこの配布チラシからであった。広報のための費用や郵送の手間はかかるが、宣伝方法としては有効であることは分かった。

ウェブサイトは以下のように専用のページをつくり、チラシのQRコードを読み取ってアクセスできるようにした。また、教職大学院サイトよりバナーでリンクするようにした。

【文部科学省】令和2年度 教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

和歌山大学教職大学院

ブレンディッド・ラーニングによる  
**教員研修履修  
証明プログラム**

学びのネットワーク

自宅で受講 現場で受講

和歌山大学

教職大学院にて

共同リサーチ

心身の発達で  
授業・ワークを

MENU

- 開設科目
- 講座関連

プログラーカブ

2月 2021 (2)

10月 2020 (2)

このブログを検索

検索

ラベル 開設科目 の投稿を表示しています。 すべての投稿を表示

2021年2月9日火曜日

開設科目 (第二期)

講師名	藤本 典子
講座名	新しい生活様式を意識した小学校外国語教育指導力UP講座
概要	30年近くかけてやっと導入され、「聞く」「話す」を中心に意味のあるやり取りを目指してきた小学校外国語教育。このコロナ禍において指導や評価などにお悩みではないですか？当講座では、先行して研究推進してきた独自カリキュラムや教材開発の成果と課題を踏まえ、新しい生活様式を意識した小学校外国語教育の実践力向上を目指します。
対象	主に小学校教員が対象です
講義日時	オンデマンド配信 (予定) 2月27日 (土) ~3月末まで視聴可能 対面講義日 (予定) 3月20日 (土) 14:00~17:00 オンライン講義日 3月20日 (土) の対面講義において受講者からのニーズを受けて後日に設定する。

講師名	深澤 英雄
講座名	歴史授業力UP講座
概要	児童・生徒が「おもしろい」「もっと知りたい」と思える歴史授業がしたいという先生方！「教材研究のコツ」「教科書研究のコツ」「授業構成のコツ」「授業展開のコツ」をテーマに授業改善の手立てを考えます。対面講義では「模擬授業(参勤交代)」を行います。「主体的・対話的で深い学び」が生まれる歴史授業へのカギを見つけませんか。 主な著書：『学習指導要領2020 実現のための「新・教師力20」』(小学館 2018) / 監修：ドラえもん社会ワールド なぜ? どうして? 日本の歴史 (小学館 2019) 他、学習関連書籍多数を執筆。

## 当事業の専用サイトの様子

### 4. 広報体制について

第一期の広報の結果から、教諭人数分のチラシを印刷して、県下の全ての小学校・中学校に郵送はそれなりに効果があることが分かった。また、教職大学院のこういったスタッフがどのような専門性を持っているかを宣伝することにもつながり、地元の教員養成機関としての存在感を示すためにも有効であったと考えられる。

しかしながら、費用対効果を考えたり、宛名印刷・封入作業の労力を考慮すると、継続的に実施することは困難であると思われる。

そこで、電子メールによる広報を試行した。全県下の学校ウェブサイトを検索し、その中で電子メールを掲載している学校をリストアップした。しかしながら、電子メールを公開している割合は全体の2～3割となり、多くの学校には案内を届けることができない。また、学校管理アドレスに対して以下のようなメールを送ったところで、これが教員全体に周知されるとは限らない。むしろ、案内されない場合の方が多いと考えられる。

各学校ウェブサイト管理者様へ（学校ウェブサイトに掲載されている電子メールアドレスに送信させていただきました。）  
「和歌山大学教職大学院」の研修講座についてのご案内を送付させていただきます。  
校務ご多用の中恐れ入りますが、ぜひ教職員の皆様へご周知いただければ幸いです。

-----  
和歌山大学教職大学院より第二期の募集について下記のとおりご案内させていただきます。  
<https://ksd-wakayama.blogspot.com/>  
(添付ファイルにもPDFをつけております。)

和歌山大学教職大学院では、オンライン・オンデマンド・対面を組み合わせた新しい研修講座を和歌山県内の教職員の方々を対象として実施しております。冬季休業中に実施しました第一期では、県下で40人を超える受講登録をいただきました。  
第二期では、以下の新たな4つの講座と特別講座を1つ実施することとなりました。  
※オンデマンド映像の配信は、2月27日（土）に全講座同時に配信開始となります。その後、オンライン及び対面での実施を予定しております（対面実施については、コロナ情勢を見据えて判断いたします。）

○開設科目のご案内  
各講座は「オンデマンド・オンライン・対面を合わせて5コマ分」となります。  
各科目の詳細は、文末もしくは<http://pde.edu.wakayama-u.ac.jp/>を参照してください。

○第二期 講座名（以下の5つの講座を開設します）  
1. 新しい生活様式を意識した小学校外国語教育指導力UP講座（担当：藤本典子）  
2. 歴史授業力UP講座（担当：深澤英雄）  
3. 「GIGAスクール」に向けた「情報モラル指導」実践講座（担当：豊田充希）  
4. 天文授業力UP講座（担当：富田晃彦）  
5. 【特別講座】「教職大学院オンデマンド講義ダイジェスト」（教職大学院各教員）

○お申し込み方法：2月23日（火）までに、下記の電子メールにてお申し込み下さい。  
複数の講座を受講いただくことも可能です。また、【特別講座】のみの受講も可能です。この機会に、教職大学院講義の一端をぜひ体験いただければ幸いです。  
pde-edu@ml.wakayama-u.ac.jp  
電子メールには以下の情報を記載してください。  
タイトル（題名）：履修証明プログラム申し込み  
本文：○○学校（役職名）（氏名）  
：受講希望する講座番号もしくは講座名

### 学校アドレスへ送付した広報メールの一例

その他、教職大学院修了生OB/OGへの案内等もおこなってはいるが、こちらも修了後にメールアドレスが変更になっているなど不確実である。やはり、組織的な広報体制のもと、確実に県下の教諭に当講座の開催情報が届くようにするためには、各教育委員会との協力体制が必要不可欠であると思われる。教育委員会の「後援」を正式に獲得しつつ、一定の認知度があがれば、ウェブサイトへのアクセスを誘導することも可能であろう。

## 「生徒指導力・学級経営力 UP 講座」についての成果と課題

担当・報告：谷尻 治

### ○5回分の実施日

- ① オンライン 令和2年12月26日（土）9:10～10:40
- ② オンライン 令和2年12月26日（土）10:40～12:20
- ③ オンデマンド形式 12/26（土）～1/10（日）の間に moodle システムにより視聴
- ④ 対面形式（和歌山大学内） 令和3年1月11日（月：祝日）9:10～10:40
- ⑤ 対面形式（和歌山大学内） 令和3年1月11日（月：祝日）10:50～12:20

○受講生：合計7名（小学校5名、中学校1名、高等学校1名）

### ○当講座の成果

受講生には講義がすべて終わってから受講の感想を書いて頂いた。以下は感想より一部を抜粋したものであり、全体として好評だったことがうかがえる。

・本講義で取りあげられたようなケースの検討したり、さまざまな実践報告を読んだりして考え、そのような瞬発力を養っていききたいと思う。

・たくさんの対応方法を具体的に語ってくださったことが、現場で活用できる知恵となりました。本校は報われなさを感じる人が多いですが、今回学んだことを実践し、まずは自分と関わる部分が良くなっていけばいいと考えています。自分の困り感に的中する講義でした。また、先生の元で勉強させていただきたいです。

・大きなトラブルがあった際に、教師が中途半端な気持ちのまま指導に入るのではなく、言葉や態度で事の重大さが子どもにも伝わるように心がけたいです。いじめや虐待に対しては、教師が最初に気づいたときに対応できるかが大切であると分かりました。

・講義の形態もオンライン、オンデマンド、対面と、異なる形で受講できたのは良かったと思う。学校現場では対面授業のみであり、オンライン授業やオンデマンド授業の環境は整備されていない。ZOOM というものも、名前を聞くばかりで使い方がわからなかったため、それを使った講義を経験できたのは良かった。

・問題を起こす生徒でも、心のどこかにいい子でありたいという気持ちがあるので、そこに届くような声かけをしていきたいと思いました。切り捨てるという形ではなく、なんでそのような行動をとったのか、成長するときだ、と教師の本気度が伝わるような指導の仕方を意識していきたいです。

・教員として働いている今だからこそ新たに出てきた考え方や認識もあった。生徒指導をどう作っていくのか、リーダーやフォロワーはどう育てていくのか、他校の先生方と話し、またロールプレイも交えて学習できたのがよかった。子どもの側につくリーダーを育てることが必要であるという認識ができ、リーダーは教員が工夫して育てるものなのだとわかった。

・生徒指導力・学級経営力UP講座を全て受講し、短時間ではあったが、これからの教師生活において、いろいろなヒントをいただけた。

### ○当講座実施実施上の工夫や配慮

・少ない人数で面識もなかったメンバーであったが、最初のオンライン講義から積極的に交流の時間やディスカッションの時間を保障したせいか、対面と変わらないほどの密な関係が早い段階で出来た。

・オンライン授業で都合の悪い方にも、Zoomの録画映像で後日受講していただくことができた。

・個別対応をしたこともあり、最終的に、受講生全員がすべての講義を受講することができた。受講生の意欲の高さも背景にあると思われる。

・5コマで受講生が少なかったこともあるが、対面と変わらないような濃密な学習となるよう、工夫した。例えば、課題を提出させた後、全員の分をまとめて冊子にして配布（互いがどのように学んだのかがわかり、他者の学びからも学びが深まる）したこと、そして、対面では、校種や経験年数が異なるメンバーが混じったグループとなるよう事前にグループを設定した。結果的に、多角的な視点から議論がおこっていた。

### ○当講座実施上の課題

・募集期間が短く、学校現場（教員）に案内が十分に行き届いていない。

・受講期間が冬休みと重なり、受講を希望していても、日程調整が難しかったと思われる。

免許状更新講習なら、3月に案内を出しており、希望者は日程調整をして申し込んでいる。

・上記の結果、受講生が少なかった。講義担当者の準備はほとんど変わらないため、少なかったのは残念である。内容の問題もあるとは思うが。

・今後、これを継続するなら、受講3ヶ月前には学校現場に案内が届くよう、準備を進める必要を感じる。

・日程をよく確認しないまま、受講を希望された方があった。そのため、部活動その他と日程が重なり、オンラインや対面授業が受けられない事態がおきた。個別に調整して、一人相手のオンライン授業を2回別途行うなど、工夫して受講していただいた。日程の事前徹底も課題である。

### ○エピソード

・「実は教職大学院への入学を希望したのだが、校長に説得されて先延ばしとなっている。今回、このような機会があったので、体験したくて申し込んだ」という方が2名おられた。今後、入学生の確保という意味でも、ブレンディッド・ラーニングで受講してもらう意義はあるだろう。

・「3学期から、子どもへの向き合い方が変わったのか、学級が良くなってきた」と、対面

の日に報告された受講生がいた。

・教育学部の講義で担当したことのある卒業生が（現在は講師）が、講義後に長々と現場での様子を話してくれた。自分のやっていること（生徒指導など）が、これで良いのかどうか確信が持てなかったが、やはり間違っていなかったという実感が持てたようであった。

### 【受講生の感想】

★問題行動を起こした子どもへの指導についてのお話が、特に印象に残りました。一発目でやったことを認めることができるように、強い覚悟を持って語りかけ、大事な話をする雰囲気づくりをすることの大切さがよく分かりました。私の対応と谷尻先生が見せてくださった対応は全く違ったので、大変学びになりました。大きなトラブルがあった際に、教師が中途半端な気持ちのまま指導に入るのではなく、言葉や態度で事の重大さが子どもにも伝わるように心がけたいです。いじめや虐待に対しては、教師が最初に気づいたときに対応できるかが大切であると分かりました。いじめについては、最初はいじりのつもりだったものが、エスカレートしてしまう場合があると思うので、教師が気になった「いじり」について、その場で指導することが大切だと考えました。虐待については、様々な種類があることを学び、教師は子どもの問題行動を見た際に、家庭環境による影響がないか、という視点を持つことの大切さが分かりました。

★「わかってはいるけれども、実際にはできていないこと」が生徒指導に関わる部分でたくさんあると思った。チームで取り組んでいくことはもちろん重要だが、その瞬間その瞬間に、どのようにして生徒に寄り添うか、どのような声をかけるかなど、学校で生徒と関わる場面ではある種の瞬発力のようなものが必要になってくると感じる。本講義で取りあげられたようなケースの検討したり、さまざまな実践報告を読んだりして考え、そのような瞬発力を養っていききたいと思う。

他の受講生の方々の意見をもっと聞きたかったです。日程的に困難だったのが非常に残念でした。コロナ禍で、他の先生方と関わる機会が激減した今、このような交流の機会はとてありがたかったです。

また、谷尻先生には、オンライン講義の個別対応ほんとうにありがとうございました。たいへん有意義な時間を過ごすことができました。これを新たな刺激に、日々の実践を磨いていこうと思います。また、大学院についてのお話も非常に興味深かったです。いつかかならず、研修制度を利用して大学院で学びたいと思います。

★大学の授業は受講者通しのかかわりがなく、黙々と話を聞く授業が多いが、1講義目からお互いの顔を見ての自己紹介があり、気づけばすごく積極的に受講することができていた。大人同士でも自分の意見を伝え、相手のことを理解し、勉学を共にする経験が、本当に大事なことだと実感できた。

授業では教員になるため勉強してきたことを再確認できる良い機会になったとともに、教員として働いている今だからこそ新たに出てきた考え方や認識もあった。生徒指導をどう作っていくのか、リーダーやフォロワーはどう育てていくのか、他校の先生方と話し、またロールプレイも交えて学習できたのがよかった。子どもの側につくリーダーを育てることが必要であるという認識ができ、リーダーは教員が工夫して育てるものなのだとわかった。これから生かしていきたいと思う。

最後に、谷尻先生に大変お世話になり、感謝申し上げたい。一人の受講者のために、オンラインでの授業をしてくださったり、熱心に対応してくださった。いままで子どもを見捨てなかった素晴らしい先生であることを、その姿勢を通して感じられた。

今回の受講を機に、より一層励んでいきたい。

★全体を通してまず、大事だなと思ったことは、生徒の自治を育てることです。役割を与えることやレクレーションなどを通して子供たち同士をしっかりと繋げ仲間力を鍛えることが今後重点的にしていきたいなと思いました。やらされているよりも、やりたいと思うような仕掛けを少しずつ与えていきたいです。第3講では、どの子のリーダーになることができると学習しました。何か問題があったとき、生徒を頼り、得意を伸ばしてあげ、活躍する場面をつくることで、子どもたちの繋がりを育てることができます。問題行動を起こす生徒に対しては、その子にある背景を見て上げ、共感から信頼関係を結ぶことができます。問題を起こす生徒でも、心のどこかにいい子でありたいという気持ちがあるので、そこに届くような声かけをしていきたいと思いました。切り捨てるという形ではなく、なんでそのような行動をとったのか、成長するときだ、と教師の本気度が伝わるような指導の仕方を意識していきたいと思います。

★第1講で学んだ3つの生徒指導という考え方で、生徒指導を捉える視点が増えました。開発的生徒指導・予防的生徒指導を中心に行い、成功体験を中心に安心・安全な学校をつくることが理想です。しかし、実際には治癒的生徒指導の方法を持っていなければ現場で生き残れません。先生の講義では、治癒的生徒指導の方法を具体的に教えてくださったので、現場で苦勞している身として、とても勉強になりました。「立ちなさい。今からする話は君の成長にとってとても大事な話なんや。分かったら座りなさい。」こういった声かけ一つで本音を語ってくれる。本音を自分の口で語ることが本人の成長につながる。後手を踏んだ生徒指導でも、関わり方一つで成長の機会に変えることができるのです。こういった対応ができるように、日頃から生徒と関わり、情報をあつめる行動をしていきます。

第2講で学んだいじめ対応は、リアルな事例検討であったため、そこから学んだ対応の原則は、実際の現場でも応用ができます。チームで指導にあたることや、一人で抱え込まないこと。これが原則ですが、実際は忙しすぎることや、聴き取りはしんどいことから、聴き取りに入りたがらない先生が多いです。動ける若手が処理を任せられることが多いです。また、トラブルを起こすと担任の力量不足を陰で言われます。複数の教員で聴き取れば負担は圧倒的に減ります。組織として、負担が偏らないように体制をくるためには、指導の原則が多く先生に共有されることが必要だと思いました。

第3講では、困難を抱える生徒をとの関わりを通して、関わり方のモデルを示し続けた教師の姿が、子どもをリーダーに変えるという教師の対応（信念）を学んだ。

「子どものリーダーは子ども集団の側に立つ」という言葉を、集団のために動く真のリーダーは、信念への共感を元にして、子ども集団の中から「生まれて」くる、と解釈した。その後、他の参加者の感想を読み、「どの子にも居場所を作り出すこと」、「場面が変わればリーダーも変わること」、「活動の場を保証すること」など、子どもファーストな考え方が大事なのだというように、考えが深まった。

第4校では、マルチリトメントについて学んだ。「虐待の再演」この言葉がしっくりくる。今年大変

だった生徒がまさにそうしていた。マルトリートメントによるアタッチメントの未発達。この視点を持った対応が、我が校では求められている。特別支援対応だけでは、この子たちを救えない。マルトリートメントとそのケアについて深く学び、目の前の生徒や保護者と関わっていく。

第5講では、川崎実践から学んだことを、KJ法を使って分析。全体で共有した。川崎実践は、教師集団・そして子ども集団を提案と合意形成によって動かしていく力がすごい。川崎先生がどれほど汗を流されたことか。文章には表れない、膨大な動きがこの実践を支えているのだと思う。

教員経験が浅い教師は、生徒対応の部分でつまづくことが多い。私がそうだ。だから今回この講義を受けた。年末からの学びは、日々に埋没し見通しが持てなかった自分に、今一度希望と展望を持たせてくれた。

最後に、谷尻先生に感謝を申し上げます。たくさんの対応方法を具体的に語ってくださったことが、現場で活用できる知恵となりました。本校は報われなさを感じる人が多いですが、今回学んだことを実践し、まずは自分と関わる部分が良くなっていけばいいなと考えています。自分の困り感に的中する講義でした。また、先生の元で勉強させていただきたいです。ありがとうございました。

★谷尻先生の講義は、昨年度も大学で受講する機会があり、そこでも「ためになるなあ」と思った。学んだことについて、「現場に出たら心得ておこう」とも思っていたが、実際に現場に出てからは、忙しさや初めての経験に対する戸惑いもあって、学んだことを思い出せていなかったなど改めて思う。そのため、それらを思い出す意味でも、今回、また受講する機会を得られたのは幸運であった。また、講義の形態もオンライン、オンデマンド、対面と、異なる形で受講できたのは良かったと思う。学校現場では対面授業のみであり、オンライン授業やオンデマンド授業の環境は整備されていない。ZOOM というものも、名前を聞くばかりで使い方がわからなかったため、それを使った講義を経験できたのは良かった。私は特別支援学級の担任をしているが、「どの子どもまっとうに生きていってほしい」ということを忘れず、子どもの本心での願いに気づけるような教師でありたいと思う。この度は、5回の講義をありがとうございました。

★生徒指導力・学級経営力UP講座を全て受講し、短時間ではあったが、これからの教師生活において、いろいろなヒントをいただいた。

例えば、いじめ問題と指導では、前回の認定講習でも教えていただけたが、ものすごくこれが強烈に印象に残っていて、今の私があるように思う。

先生が、「これは、立派ないじめやな!」「誠くんは、心から笑ってるか、そんな事されて嫌って言えるか。」と毅然とした態度をとるという事は、大変勉強になった。

(途中略)今の勤務校へ赴任してきて二年目になるが、通常学級に、なんとグレーゾーンの児童が何人もいる。そこで、今、その子達を理解しようと、色々な講習にも参加している。そして、第5講で児童虐待について学習した。

(以下、プライバシーに関わるので省略)

だから、その生々しい経験から、自分のクラスの子の顔の傷や、体の傷には、きっちり見逃してはいない。この講座を受けて良かったです。ありがとうございました。

## 【生徒指導力・学級経営力 UP 講座の様子】

### ○オンデマンド教材（Moodle におけるメニュー画面）

※オンデマンド部分だけではなく、全講義を Moodle 上に配置しているため画面上には 5 講座がある。

#### 第 1 講 3つの「生徒指導」

##### 学生から投稿

★本時はZoomアプリを使って、オンラインで行います。やり方については、事前に各受講生にご案内しますので、当日は9:00にZoomで参加してください。

★事前に以下の資料をすべてダウンロード&プリントアウトして、使用できる状態にしておいてください。

・第1講 3つの「生徒指導」オンライン版ワークシート

・あなたはどっち？

・心象スケッチ

 第1講 3つの「生徒指導」オンライン版ワークシート

 あなたはどっち派？

 心象スケッチ

#### 第 2 講 いじめ問題と指導

##### 学生から投稿

★第1講に続いてZoomを使って、オンラインで行います。

★事前に以下の資料をすべてダウンロード&プリントアウトして、使用できる状態にしておいてください。

・第2講 いじめ問題と指導オンライン版ワークシート

 第2講 いじめ問題と指導オンライン版ワークシート

 いじめ防止のための基本的な指針

#### ダイジェスト版 課題のある子を支援する学級集団づくり

★手帳書にしたがって各自で学習します。

★期間は2月27日（土）から3月31日（水）までです。

★課題がふたつあります。手帳書を読んで、指示通りに取り組んでください。

 手帳書

 ダイジェスト版 課題のある子を支援する学級集団づくり オンデマンド版ワークシート

 動画 「課題のある子を支援する学級集団づくり」

 課題提出箱①

動画を視聴しながらオンデマンド版ワークシートに記入して完成させてください。提出は課題提出箱①まで。

締切：3月31日（水）午後5時

 マンガ「海ちゃんの天気 今日はおれ」

 実践記録 「高田君の疑問の子どもたち」

 実践記録の分析

 ダイジェスト版 課題用紙

 課題提出箱②

実践記録と実践記録の分析（抜粋）を読み、「ダイジェスト版 課題用紙」の指示に従って完成させてください。提出は課題提出箱②まで。

締切：3月31日（水）午後5時

#### 第 4 講 被虐待児への支援

##### 学生から投稿

#### 第 5 講 これからの生徒指導・学級経営

##### 学生から投稿

 授業課題&感想用紙

○第1講 3つの「生徒指導」／第2講 いじめ問題と指導のワークシートの一例

和歌山大学教職大学院 2020.12.26

**生徒指導力・学級経営力UP講座 ①/⑤**  
— 3つの「生徒指導」 —

**1. 3つの「生徒指導」**

(1) [ ] …いわゆる後進の生徒指導。子どもが何らかの問題行動を起こし、教員がその対応にあたる。これに追われると、教師の疲労度が高まる。

(2) [ ] …早期発見・早期対応を基本とし、教育計画をたてて実施する。薬物防止教育・ネットやスマホ教育、そして性教育などが該当する。

(3) [ ] …育てる生徒指導。子ども自身で問題を解決し、自己選択できるよう、積極的に取り組んでいく。構成的グループエンカウンターやピアサポートなど。

**2. 関係的生徒指導 — 構成的エンカウンター**  
**構成的グループエンカウンターとは**

構成的グループエンカウンターとは？

○定義  
エンカウンターとは、ホッペを表現し合い、それを互いに認め合う体験のことです。この体験が、自分や他者への気づきを深めさせ、人とともに生きる喜びや、わが道を力強く歩む勇気をもたらします。

構成的グループエンカウンターとは、リーダーの指示した課題をグループで行い、そのときの気持ちを率直に語り合うこと「心と心のキャッチボール」を通して、徐々にエンカウンター体験を深めていくものです。

○現状  
人間関係が希薄な現代人は、自然にエンカウンターする機会がもちにくくなっています。いま学校では、教師がリーダーとなり、エクササイズを実施し集団でエンカウンターを体験して心を育てようという気運が高まっています。いわば「本音を表現する人間関係の実験室づくり」です。もともとは園分養老先生が提唱され、初めは3泊4日の合宿形式で行われていました。現在は学校に導入されているほか、企業研修会、看護介護訓練などで広く行われています。

○内容  
ねらいをよく理解すれば、初心者の方でも十分行うことができます。エクササイズは、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験という6つのねらいを満たすように用意されています。例えば、「私はわたしが好きです、なぜならば」というエクササイズでは、自分自身の好きなこととその理由を、グループのメンバーが順番に言うことで、自己受容を促すのです。

構成的グループエンカウンター <http://www.toshobunka.jp/sgo/whats/index.htm>

◇このケースで指導に入る際、どんな配慮をしながら、どのように指導を展開すればいいのか？  
「学年団としての方針」をたて、話し合ってみましょう。

---

◇まとめたことを発表しましょう。

---

◆実際には、このように指導が展開された！

◇解決に向く過程（ストーリー）は複数あるでしょう。  
このケースでのポイントはやはり『 ]が解決につながったことは共通理解できると思います。  
☆ところで、加害者の背景にあるのは？

「 ]が子どもにもストレスを生む  
ストレス（要因）は…「勉強」「教師」「友人」「家族」→「不機嫌怒りストレス」→「いじめ加害」に結びつく（国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2010年）  
\*現場感覚では「家庭内の抑圧」「過度の競争主義」（スポーツクラブや進学塾など）が大きいと感じる

**6. いじめ問題の指導 実践のポイント**

- (1) 「大人の本気が解決の道を開く」 この信念なしにはいじめ問題に立ち向かえない。
- (2) 教師が一人で抱え込まない、必ず ] こと。
- (3) 被害者の心身の安全を最優先。絶対に ]
- (4) 加害者には、被抑圧体験が背景にあると違って間違いない。共感的な姿勢を忘れない。
- (5) 学級集団で起こっている「いじめ」を自分の事として捉えられない傾向がある。
- (6) いじめ事象、克服させるには、人間関係を育てることが重要である。
- (7) ネット上の「いじめ」は、リアルな場面では解決できない。

○オンデマンド講義映像の一例

**(2) 指導の視点は？** [ ] に説明を記録します

\*低学年時で、集団から「排除」や「抑圧」を受けた子が、上級学年へ進級するにつれ、ますます「暴言や暴力」を起こしているのが現状ではないか？

\*子どもたちと一緒に、この状況を克服していくのが本筋

教師が発信するメッセージに反応してきた子が「リーダー」となり、教師と共同関係を築くことで、学級の問題、学級の子のトラブルを読み解き、支援の在り方を模索することが重要。

**(3) リーダー指導のポイント**

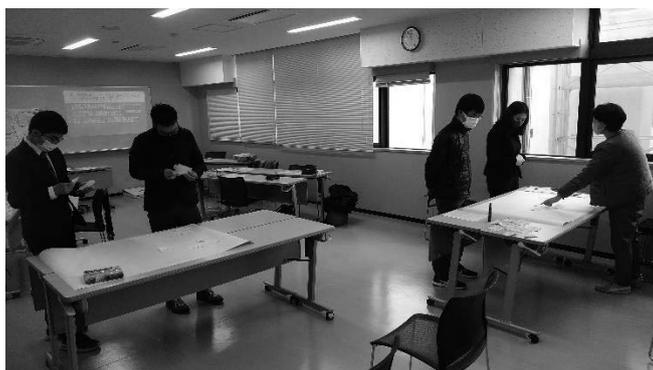
- ①まず、教師自らがリーダーに
- ②リーダーを発掘する…【活動】がないと、リーダーの発掘は難しい！
- ③リーダー発掘の視点として、組織性・実務力・分析力・発言力・原則性・大衆性、そして（課題のある子に寄り添える力）

○テレビ会議（オンライン）の様子

※以下のスクリーンショットは、個別指導の様子。



○対面演習の様子（本学内にて）



# 「新学習指導要領に対応した新しい道徳授業実践講座」についての実施報告

担当・報告：伊澤真佐子

## ○オンデマンド教材

**第1講 学習指導要領について**

はしの上のおおかみ

手順書  
手順をよく読んで進めてください。  
① 1講前半のパワーポイントを視聴する  
② 「はしの上のおおかみ」の教材をダウンロードして読み、指導案を考える  
③ 1講後半のパワーポイントを視聴する  
2講からも同じように視聴してください。

1 講前半新学習指導要領  
はしの上のおおかみ 20201218 0001  
枠だけ 道徳指導案  
1 講後半現代的な課題  
2 講 前半道徳科授業の新しいアプローチ

---

**第2講 道徳科授業の新しいアプローチ**

2 講 前半道徳科授業の新しいアプローチ  
たった一言 20201218 0001  
枠だけ 道徳指導案  
2 講・後半発問・板書

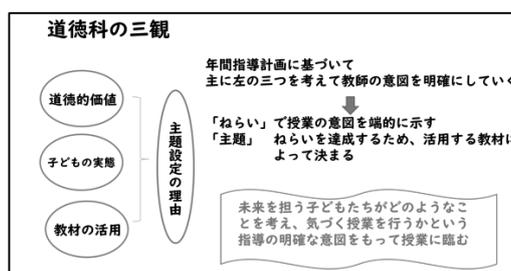
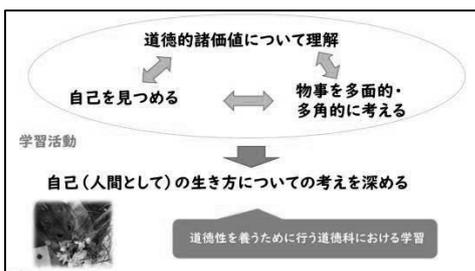
---

**第3講 評価と指導方法の工夫**

3 講 前半・評価について  
娘のしよく台 20201218 0001  
枠だけ 道徳指導案  
3 講・後半・授業構成について

当講座のオンデマンド教材（Moodle 上の講義メニュー）を上記のように設定した。

## 第1講 学習指導要領について（オンデマンド講義映像の一例）



<p>導入</p> <p>子どもたちの生活や身近な出来事から、道徳について考えさせる。その中で、道徳的価値の重要性を伝え、道徳的価値の重要性を伝え、道徳的価値の重要性を伝える。</p>	<p>展開</p> <p>道徳的価値の重要性を伝え、道徳的価値の重要性を伝える。その中で、道徳的価値の重要性を伝え、道徳的価値の重要性を伝える。</p>	<p>終末</p> <p>道徳的価値の重要性を伝え、道徳的価値の重要性を伝える。その中で、道徳的価値の重要性を伝え、道徳的価値の重要性を伝える。</p>
--	--	--

参考：四天王寺大学 杉中康平

## 第2講 道徳科授業の新しいアプローチ（オンデマンド講義映像の一例）



心理学的な「体験的学習」＝エンカウンター

エンカウターの正式名称は、「構成的グループエンカウンター」

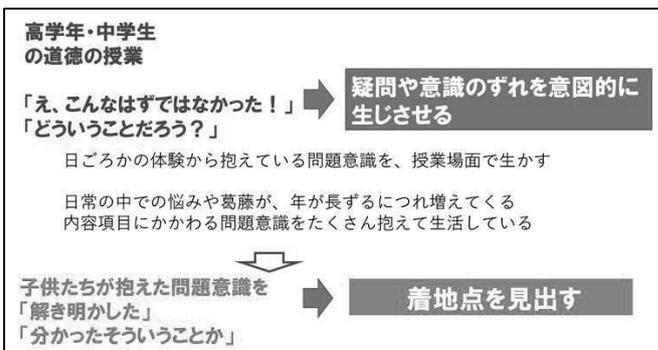
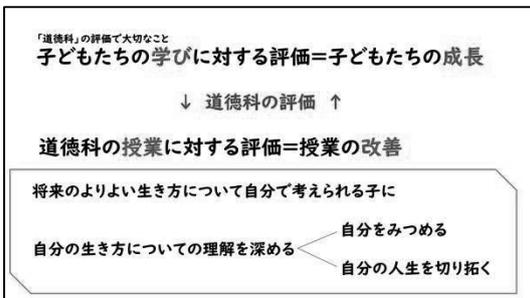
心と心のふれあいの場を意図的に設定し、それにより、子どもの心と人間関係を育んでいく心理学的な教育方法、それがエンカウンター。

構成的エンカウターの基本的な流れ

- ①ウォーミングアップ 活動性の高いエクササイズを行い、場を柔らかくする。
- ②エクササイズ（実習） リーダーが指示を出していく。
- ③シェアリング ワークシートなどに「今日の学習で感じたこと、気づいたこと」などを記入した後で、小グループや学級全体でそれについて語り合い、体験を分かち合っていく。



## 第3講 評価と指導方法の工夫（オンデマンド講義映像の一例）



## ○対面形式の様子

### ①対面形式（グループワーク）

オンデマンド教材で課題としてあった学習指導案を交流し、その後グループでの話を発表した。オンデマンド教材をしっかりと視聴していただいていたため、作成してきた学習指導案をもとにして熱心な話し合いがなされた。



### ②道徳教材をもとに児童・生徒役をするような、体験的な活動も入れました（役割演技）。



### ③教具の紹介をしながら、作り方や保存方法、授業づくりについて講話している場面。



### ○担当講師による振り返り

・それぞれの学校や地域でどのように教科化となった道徳科に取り組んでいるのかの話を聞いたのは刺激になってよかった。

・熱心な先生方ばかりで、オンデマンド教材で課題とした教案を皆さんしっかり考えてきたのでグループワークが充実した話し合いとなった。

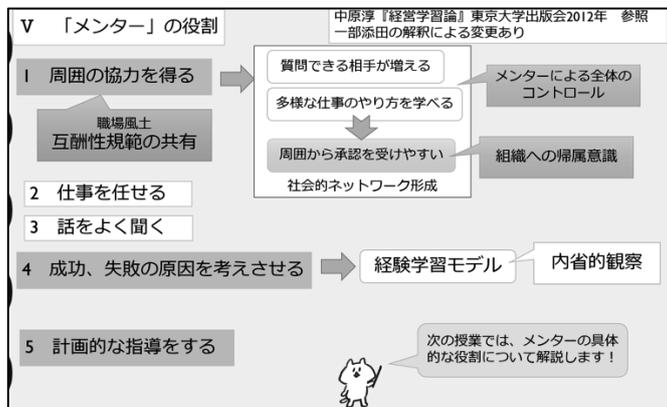
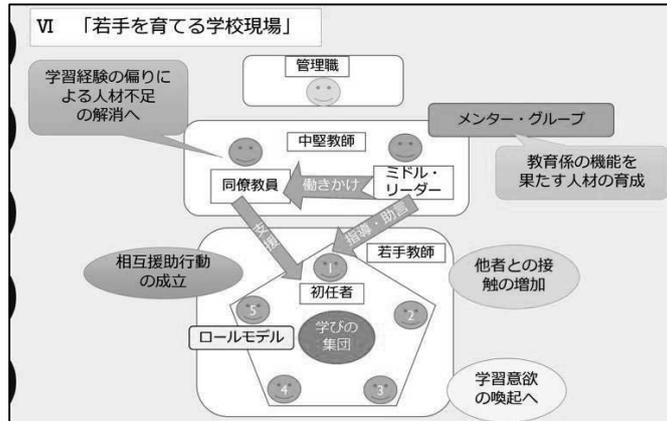
・模擬授業の形で行った授業でも、意欲的に意見を言ってくれたので、授業展開の工夫について考えることができた。

△授業準備の時間に、雪で高速道路が閉鎖されたらどうしたらいいか、コロナ対策は、などの電話・メールがきて対応が大変でした。講座ごとに基準が違ってはいけないと思い、返答に困りました。

## ○若手教員への指導力 UP 講座 (Moodle 上の講義メニュー例)

<h3>講座の概要</h3> <p>校内で携えつつある若手教員へ、どのように指導したらいいのか、支援したらいいのか、困ることはないですか？あるいは、初任者の校内指導教員となった先生へどのように指導するよ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>📄 講座の日程と各回の内容 (予定)</li><li>📎 指導力UP講座_担当講師からのご挨拶</li></ul>
<h3>第1講 メンタリングとは？</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>📎 ①ミドルリーダーの育成の必要性について</li><li>📎 ②メンタリングの機能</li><li>📎 パワーポイントを視聴して感想・質問</li></ul>
<h3>第2講 初任者の指導実態とは？ (2017年度のアンケート調査から)</h3> <ul style="list-style-type: none"><li>📎 ①初任者指導の実情</li><li>📎 パワーポイントを視聴して感想・質問</li></ul>
<p>受講者の関心があるテーマについてお聞きします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>📎 受講生へのアンケート</li></ul>
<h3>第3講 校内での若手指導体制をつくるには？ (成功事例をもとに考えよう)</h3> <p>1/11 (月) 13:10~14:40 対面で実施しました (@和歌山大学)</p> <p>対面授業の様子は、下記のリンクより視聴できます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. アプリをクリックすると、ログイン画面に飛びますので、「wbl200_@wakayama-uacjp」のアドレスを入力してください。( _の部分には自分の番号が入ります)</li><li>2. 画面が移って、結局用ログイン画面が出ますので、アドレス入力した下の欄にパスワードを入力してください。(メールで送られてきたパスワードです)</li><li>3. パスワードが無事に認証されると、ビデオが見えるようになります。</li></ol> <ul style="list-style-type: none"><li>📎 対面授業 その1</li><li>📎 指導力UP講座/パワーポイント資料1</li></ul>
<h3>第4講 校内での若手指導体制をつくるためのリソース</h3> <p>1/11 (月) 14:50~16:20 対面で実施しました (@和歌山大学)</p> <p>対面授業の様子は、下記のリンクより視聴できます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. アプリをクリックすると、ログイン画面に飛びますので、「wbl200_@wakayama-uacjp」のアドレスを入力してください。( _の部分には自分の番号が入ります)</li><li>2. 画面が移って、結局用ログイン画面が出ますので、アドレス入力した下の欄にパスワードを入力してください。(メールで送られてきたパスワードです)</li><li>3. パスワードが無事に認証されると、ビデオが見えるようになります。</li></ol> <ul style="list-style-type: none"><li>📎 対面授業 その2</li><li>📎 指導力UP講座/パワーポイント資料2</li></ul>
<h3>第5講 まとめ</h3> <p>1/23 (土) 9:10~10:40 オンラインで実施します。</p> <p>*1月に入りましたら、zoomのアドレスをお送りします。</p> <p>このオンライン授業では、お互いの状況について話し合しましょう！(話す内容を整理しておいてください)</p> <p>①若手教員や学校の状況 (学校規模・職員の年齢構成など)</p> <p>②課題と感じられること</p>

○第1講 メンタリングとは？（オンデマンド教材の一例のスクリーンショット）



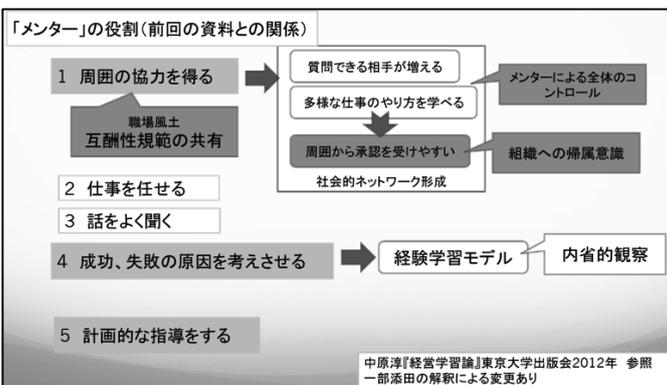
### メンタリングの主たる機能(1)

①コーチング(指導をすること)

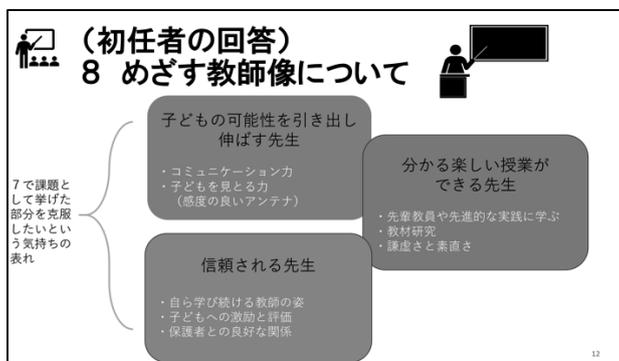
- コーチングとは、授業づくりなどに求められる技術や方法に関するメンティの学習を促し、実践の改善や向上を実現させようとするもの。コーチングでは、メンティの実践がよりよく改善されるために必要なスキルの習得を促します。その際、目標を設定し、振り返りの機会を設けながら、メンティの学びを促すことが求められる。

②アセスメント(現状を分析し、その結果を示すこと)

- アセスメントとは、メンティによる目標設定や振り返りを通じた自分自身に対する気づきを促すために、メンティの実践についてのデータを収集し、それをわかりやすいかたちで提示すること。ここでいうアセスメントとは、メンティの現状について「評定を下す」といった類のものではなく、あくまでもメンティ自身の学びを促すための材料を収集し、それを提示することが中心となる。



○第2講 初任者の指導実態とは？（2017年度のアンケート調査から）  
（オンデマンド教材の一例のスクリーンショット）



○第3講 校内での若手指導體制をつくるには？（成功事例をもとに考えよう）  
（オンデマンド教材の一例のスクリーンショット）

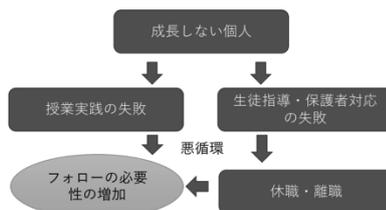


○第4講 校内での若手指導體制をつくるためのリソース  
 (オンデマンド教材の一例のスクリーンショット)



教員個人の成長と、教員の成長が学校組織に与える効果について

- 個人の成長・・・←任せられる信頼感の構築=同僚性の構築
- ↓
- 学び合う教員関係
- ↓
- 組織としての成長



## ○GIGA スクールにおける授業実践”導入”講座

※Moodle 上の講義メニュー（オンライン講義の様子を収録した回を1つ加えている）

GIGAスクールにおける授業実践”導入”講座

Home / マイコース / GIGAスクール

---

GIGAスクールにおける授業実践”導入”講座

【オンデマンド講義の公開設定ができておらず受講者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。公開期間を大幅に延長し3月末まで視聴できるように設定しましたので、ご都合に合わせてゆっくりご視聴ください。】

当サイトでは、12月26日に実施したZOOMによるオンライン講義の収録映像及び「オンデマンド講義（1）」と「（2）」を提供いたします。

オンデマンド講義（1）は、ZOOM収録の録画を主に取り、GIGAスクールにおけるタブレット端末を使用した多くの授業形態や発問的学習について追加の解説をいいたします。オンデマンド講義（2）は、GIGAスクールでの「情報活用能力」の育成について解説しています。各種資料と合わせてご視聴ください。

※当講義の録画・資料等は、GIGAスクール関係の院内情報等でご利用いただけます。ただし、その際には、著作権等の配慮のため、電子メールにて、ご一報をいただければ幸いです。

---

12月26日（土）オンライン講義の様子

📺 12月26日のオンライン講義の録画

📎 オンライン講義のプレゼンデータ

※オンライン講義のプレゼンデータのPDFです。個人の学習用としてお使いください（複製等・転送等は控えください）。  
それぞれのスライドの解説は録画とともにご覧ください。

---

オンデマンド講義（1）-タブレット端末一人一台体制の授業実践

約30分間の講義収録+資料視聴時間（約4分）という設定です。講義と資料は完全に関連しているわけではありませんが、講義収録の前半は資料1、後半は資料2に関連しています。講義収録の前でも後でもかまいませんので、ぜひ合わせてご覧ください。

📺 オンデマンド講義（1）

📎 資料1

「タブレット端末活用における授業の留意点や形態をどう捉えるか」（冊子：学校とICT/スカイ株式会社 2018年）

📎 資料2

「ICTを活用した学びの新しい授業の先進的な取り組み」（雑誌：情報数誌2015.1 論考）

📎 ※（補足資料） 講義スライドをPDFに変換した資料

講義で使用したスライドデータをPDFに変換したものです。補足資料としてご利用ください。

---

オンデマンド講義（2）-GIGAスクールにおける情報活用能力の育成

講義時間は長時間になりますが90分あります。「講義レシマ」と連携していますので、講義レシマを登録しておいて、手元に持ちながら視聴いただけます。より講師が容易に理解しやすくなります。また、講義中の「動画」という場所に隣接したところが「補足資料」となります。合わせてご覧ください。

📺 オンデマンド講義（2）

📎 講義レシマ（Word形式のファイルです）

※講義レシマですが、この状態で動画資料としてもご利用できるようになっています（PDFの転送は不可です）。

📎 資料：情報活用能力系統表に関する資料です。

情報活用能力系統表に関するまとめた学会発表資料です。

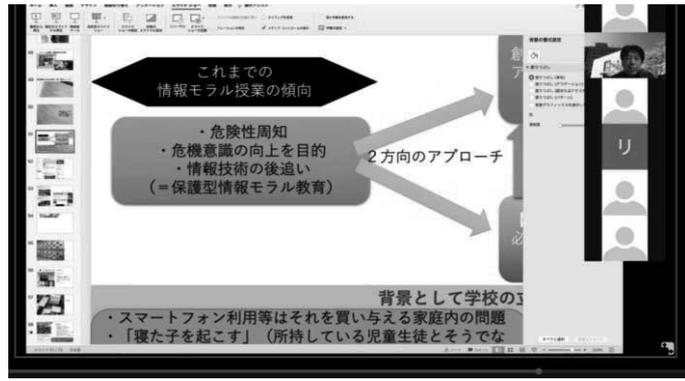
📎 ※（補足資料） 講義スライドをPDFに変換した資料

講義で使用したスライドデータをPDFに変換したものです。補足資料としてご利用ください。

## ○12月26日（土）オンライン講義の様子



具体的な実践事例を紹介しながら参加者から質問を受け付ける形式で実施。  
チャットモードも有効化して講義中も自由に書き込みをしていただいた。



## タッチタイピングについて

- 「GIGAスクール」で見直されているタッチタイピング
- GIGAでは明確に「情報化社会を担える人材育成」を謳っているため・・・
  - 「手書き」の速度を超えられるか (1例：5分で200文字を入力)
  - ビジネスユースに対応できるか (基本は両手・ホームポジション・ローマ字変換)



## オンデマンド講義 (1) 一タブレット端末一人一台体制の授業実践

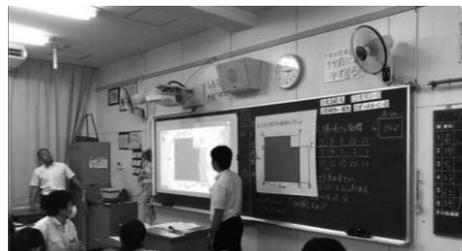
QRコードで動画ヘリンク



こまどりアニメーションもプログラミングの「順次処理」に含めて考える



撮影・編集の様子



オンデマンド講義（2）ーGIGA スクールにおける情報活用能力の育成

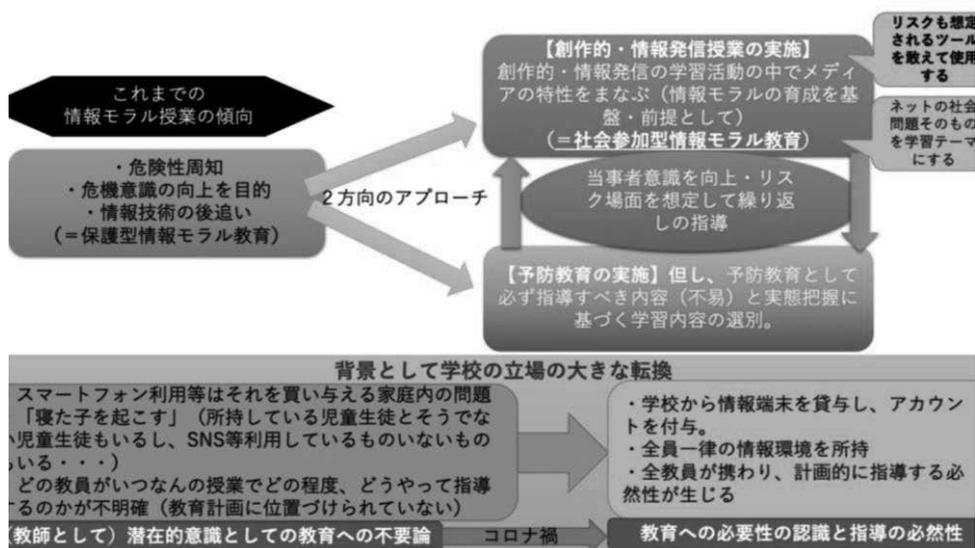
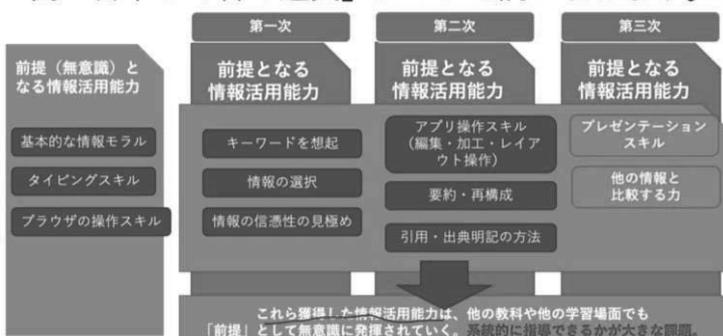
「情報ソース（情報源）」への意識が重要



インターネットは「画像素材集」という意識が児童生徒に。「盗用」を学校が指導することとなる。

従来の「保護型」から「社会参加型」へ・・・という意識改革。

例：日本の「昔の道具」について調べましょう。



## アンケートの実施について

当講座に関して、受講者アンケートを準備しているが、当冊子作成時点では、まだ第二期（後期）実施中のため、アンケート結果の総合集計はできていない。よって、第一期（前期）の3講座の結果から、回答結果の傾向を探ることとする。

### ブレンディッド・ラーニングによる履修証明プログラムアンケート

1. 本講座を何で知りましたか。あてはまるものに○をつけてください。  
チラシ 同僚等から 管理職から 本学のウェブサイト その他
2. オンデマンド教材(自習用教材)について、あてはまるものにチェックをつけてください(複数可)。  
教材は理解しやすかった 教材の分量が適切だった 興味関心をもって学習できた  
本時の学習の「めあて」が明確であった 本時の学習の到達目標が明確であった
3. ZOOM 会議システムを用いた双方向型授業について、あてはまるものにチェックをつけてください(複数可)。  
理解しやすかった 興味関心をもって学習できた  
本時の学習の「めあて」が明確であった 本時の学習の到達目標が明確であった  
他受講者との意見や情報の交換ができた 発言しやすかった
4. 対面授業(本学内の講義)について、あてはまるものにチェックをつけてください(複数可)。  
理解しやすかった 興味関心をもって学習できた  
他受講者との意見や情報の交換ができた 発言しやすかった  
対面で実施することでより効果が上がる内容だと感じた
5. 本講座を受けるにあたって、インターネットやパソコンなどの環境に関して次のような障害や不具合がありましたか。あてはまるものすべてにチェックをつけてください。  
接続がうまくいかなかった  
たびたび画面が止まったり、切れたりした  
オンデマンド教材や資料を指定の場所から取出したり、提出したりすることができなかった  
会議システムで資料を共有するなどの操作ができなかった  
操作などに困ったときに相談できる人がいなかった
6. 【自由記述】当講座についてご質問・ご要望等ありましたらご自由にお書きください。  
(回答自由入力)

実質的には、右の図のように、ウェブフォームからの入力となる。  
ただ、受講講座が修了すると、moodleシステムはじめ電子メール等の確認頻度も下がるため、回答率は高くないため、完全に回答いただくための工夫が必要である。

## ○アンケート結果について

・アンケートの1番目は何から当講座の情報を知り得たかについての回答を求めた。大学から県内全小・中学校に、各校の教員人数分のチラシを郵送したが、8割以上がこのチラシからの情報によって講座に申し込んでいただいたとのことであった。直接教員に届くチラシには効果があったこととなる。なお、第二期（後期）講座については、この全校への配布はとりやめ、第一期（前期）で受講頂いた方への電子メールでの案内及び学校ウェブサイトに公開されている学校アドレスへの送付に留めた。受講人数は若干減少したものの「リピート率」は高く、複数の講座を受講希望する人数も増えているくらいである。

・アンケート結果の2, 3, 4については、各講座によってばらつきがあるが、理解・興味関心に関する項目は高い結果となっている。但し、オンラインでの「他受講者との意見や情報の交換ができた」という点については、やはり低く、オンラインでの受講者同士の交流については今後工夫が必要であるといえる。

・アンケートの5については、各教員のICT活用の状況について聞き取った。各項目についてトラブルを抱えた割合は1～2割となっており、想定よりも少数であったため、コロナ禍の中、一定のPC環境やリモート授業等の環境・体験等が既にできているのではないかと予想できる。なお、最も回答が多かったのは「操作などに困ったときに相談できる人がいなかった」であった。当事業の拡大を図る際には、サポートデスク等の充実に努める必要があるといえるだろう。今回は、オンデマンド・オンラインの練習時間の機会を設けたが、4～5人のアクセスがあり、実際の教育現場ではまだまだオンライン授業等の体験不足があることは確かである。

## ○アンケート回答の自由記述からの抜粋

- ・オンライン形式は、部活等で時間が取れない教員にとって極めてありがたい研修形式です。是非このような形式が広まってほしいです。”
- ・これまで知っている情報もありましたが、自分の知識の整理に役立ちました。また、自分の知らない学校の取組を知り、次年度、本校での取組に生かしたいと感じています。今後も、色々な情報を提供していただけると嬉しいです。
- ・同僚とは教材や子供についての話しかできないので、組織マネジメントについて多くの話ができ良かったです。今後も、色々な実践について伝えてくれれば、嬉しいです。
- ・「新学習指導要領に対応した新しい道徳授業実践講座」は、実際の授業に生かせる内容であり、参考になる資料が多くありました。ただ、指導案づくりを3本することに、少し負担感を感じました。（もう既に授業を行っていた資料、本年度に授業を行わない資料での指導案づくりだったので。）ですが、講座全体をふり返ると、自分の今後の教育活動に生かせる内容が多く、とても満足のいくものでした。また、学べる機会があれば、参加したいと考えています。

自由記述においては、概ね好評価を得ているといえる。特に、研修や研究会等に出かけたくても、時間がとれない・合わない教員にとって、自宅でオンデマンド（都合のいいときに）学習できるメリットが大きいことが分かります。但し、課題負担をどのレベルに設定するかについては難しいといえます。あまりに時間のかかるものを事前に課すのは負担感の増大につながるが、一定の課題をこなさないと達成感にはつながらないことも確かである。よって、講座のボリューム感については、今後大きな検討課題として、各講座で一定の統一感を持たせる必要があるといえる。

文部科学省委託「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」事業計画書

実施テーマ	<input type="checkbox"/> 1 教職の魅力向上に関する取組 <input type="checkbox"/> 2 効果的な入職の在り方に関する研究 <input type="checkbox"/> 3 校長及び教員としての資質の向上に関する指標と研修の効果的な連動に関する研究 <input checked="" type="checkbox"/> 4 研修の単位化・専修免許状取得プログラムの開発（←本件応募テーマ） <input type="checkbox"/> 5 働き方改革推進のための研修の在り方に関する研究 <input type="checkbox"/> 6 民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上 <input type="checkbox"/> 7 先導的な教職科目の在り方に関する研究 <input type="checkbox"/> 8 教職課程の質の保証・向上を図る仕組みの構築 <input type="checkbox"/> 9 教科教育コアカリキュラムの研究
-------	--

主 題	<b>ブレンディッド・ラーニングによる教員研修履修証明プログラムの開発</b>
企画の概要① (200字以内)	オンライン会議システム利用による授業・対面授業・web教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法を内容に応じてミックスの最適化を図り履修証明プログラムを開発する。これにより和歌山県の地理的課題を克服し移動時間を節約することができるとともに、e-learningのみでは維持が難しい学習意欲や共学の一体感を向上させ、さらに学習者の学びのネットワークの構築に寄与する。研究成果については教員免許状更新講習にも活かす。
企画の概要②	別紙様式2のとおり。

調 査 研 究 実 施 機 関 ・ 団 体 名	国立大学法人和歌山大学	
代 表 者	職 名	学長
	(ふりがな)	いとう ちひろ
	氏 名	伊東 千尋
契 約 者	職 名	契約担当役 理事
	(ふりがな)	ふじもと ようじ
	氏 名	藤本 陽司
事業実施責任者	所属部署・職名	副学長
	(ふりがな)	そえだ くみこ
	氏 名	添田 久美子
	電 話 番 号	073-457-7531
事務連絡担当者	所属部署・職名	研究・社会連携課研究協力係・係長
	(ふりがな)	いど よしあき
	氏 名	井戸 嘉昭
	住 所	〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930 番地
	電 話 番 号	073-457-7576

F A X 番 号	073-457-7550
E - m a i l ア ド レ ス (※原則個人ではなく代 表アドレスとすること)	kenkyo@ml.wakayama-u.ac.jp

1) 実施体制		
所属部署・職名	氏 名	役割分担
副学長	添田 久美子	実施統括・検討委員会委員
教育学研究科長	本山 貢	事業統括・渉外・検討委員会座長
教職開発専攻 専攻長 (教職大学院)	豊田 充崇	事業実施者・検討委員会委員・WG
特任教授	貴志 年秀	ジェネラル・マネージャ・検討委員会委員 ・WG
教授	寺川 剛央	コンテンツ開発・検証・検討委員会委員・ WG
教授	谷尻 治	
教授	南垣内 智宏	コンテンツ開発・検証
准教授	宮橋 小百合	コンテンツ開発・検証・検討委員会委員・ WG
准教授	尾上 利美	
准教授	岩野 清美	コンテンツ開発・検証・検討委員会委員・ WG
准教授	伊澤 真佐子	
特任教授	藤本 典子	コンテンツ開発・検証
特任教授	森下 まち子	コンテンツ開発・検証
特任教授	藤本 禎男	コンテンツ開発・検証
<b>和歌山県教育委員会</b>		コンテンツ開発・検証
学校教育局長	川嵜 秀則	コンテンツ開発・検証・検討委員会委員
和歌山県教育センター学び の丘所長	西嶋 淳	
和歌山県教育センター学び の丘副所長	森田 浩二	コンテンツ検証
和歌山県教育センター学び の丘研修課長	日下 明典	コンテンツ検証・検討委員会委員
<b>和歌山市教育委員会</b>		コンテンツ検証・検討委員会委員
学校教育部教職員課長	竹内 伸之	コンテンツ検証・検討委員会委員・WG
和歌山市立教育研究所長	岡本 友尊	
和歌山市立教育研究所専門 教育監補	須佐 宏	コンテンツ検証・検討委員会委員

		コンテンツ検証・検討委員会委員
		コンテンツ検証・検討委員会委員・WG

2) 調査研究における教育委員会・大学・(独) 教職員支援機構等との連携		
2-1) 連携の有無		
連携先の種類	有 無	具体的な連携先
教 育 委 員 会	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	(和歌山県教育委員会・和歌山市教育委員会 )
大 学	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	( )
(独) 教職員支援機構	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	( )
そ の 他	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	( )
2-2) 連携内容 (連携先がある場合は、記入すること。)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県教育委員会 和歌山県教育委員会作成の教員育成指標にそったプログラムを開発し、研修を担当する「学びの丘」との共同研究会(既設)を検討委員会に変更して、プログラムや試験実施科目の検証を行う。</li> <li>・和歌山市教育委員会 和歌山大学と和歌山市立教育研究所が共同で実施している初任者研修において試行した科目について検討委員会(既設)で検証を行う。</li> </ul>		

3) 課題認識
<p>これまで本学では、4年間にわたって、和歌山市教育委員会と連携して初任者研修における履修証明プログラムを開発・実施・改善を行ってきた。また校内研修支援を通じて学びのサイクルの生成にも取り組んできた。これらの成果をもとに、拠点校指導教員及び校内指導教員研修のプログラムを開発・実施し、令和元年には育成指標に対応した体系的な研修プログラムの開発を行い、「出前講座」として研修を実施した。</p> <p>以上のように現職研修に取り組む中で、学校現場では、教員も管理職も研修の重要性への認識は高まってきているが、「教員の多忙化」の中で時間の確保に困難を感じており、とくに学校を離れることの困難さは大きいものがある。そうした実態を捉えて、和歌山県教育委員会では e-learning に活用できる動画配信システムやコンテンツの開発を進めてきた。しかしながら、そうした方法では学習意欲を維持することや双方向の学習を成立させることに課題が残っている。</p> <p>そこで、これまでの本学の取り組みや成果、また大学の人的・物的資源を活用し、オンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業、対面授業、web 教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法を内容に応じてミックスの最適化を図り、その科目群から構成した履修証明プログラムを開発する。これにより、和歌山県の地理的課題でもあった「移動」については、その回数を減少させることができ、これまで学校現場を離れることが難しかった管理職やミドル・リーダーも参加することが可能になる。また、オンラインによる遠隔授業によって物理的距離を超えた「つながり」の維持が容易になり、ワークショップやロールプレイング等を直接対面授業で行うことで実感の共有が保持できる。これらの特性を活かして学びを展開することにより、学習者の学習意欲や共学の一体感を向</p>

<p>上させ、さらに学習者の学びのネットワークの構築に寄与する。</p>
<p>4) 調査研究の目的</p> <p>オンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業、対面授業、web 教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法を内容に応じてミックスの最適化を図り、その科目群から構成した履修証明プログラムを開発する。現職教員の研修機会の拡大と、研修内容や教員免許状更新講習の質の向上を図る。</p>
<p>5) 調査研究の成果目標</p> <p>(1) 既開発した現職研修のコンテンツをオンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業・対面授業・web 教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法のミックスの最適化を図った科目に再構成(3 科目程度)</p> <p>(2) 教員免許状更新講習の中から学習方法のミックスの最適化を図ることで質的に向上する講習を選択・開発・試験的实施(2 科目程度)</p> <p>(3) 研修内容に応じた学習方法のミックスの最適化を図った新たなコンテンツ開発(5 科目程度)</p> <p>(4) 履修証明プログラムの拡大(2 プログラム)</p> <p>(5) 学習環境(Wi-Fi 等環境も含む)の実態把握及び検証</p>

<p>6) 調査研究の具体的な内容・取組方法</p> <p>&lt;取組み体制&gt;</p> <p>教職大学院専攻長を中心に、コンテンツの再編・開発、試行実施を行い、教育委員会との検討委員会でコンテンツの内容や学習環境(Wi-Fi 等環境も含む)の在り方について検証を行う。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) ミックスの最適化を図ったコンテンツの再編</p> <p>昨年度までの取組みで開発し、リーフレットにまとめて教育委員会や学校に広報を行い、一部試行的に実施した科目「初任者や若手教員を指導・支援する教員向け研修」、「新任管理職(教頭等)向け研修」、「校内研修(現教主任・研究主任・教科主任向け)」、「支援が必要な子どもへのかかわり方研修(若手・中堅教員向け)」について、多様な学習方法を内容に応じて最適にミックスして取り入れて再編を行い、試行的に実施する。</p> <p>2) 教員免許状更新講習の中から学習方法のミックスの最適化を図ることで質的に向上する講習を選択・開発・試験的实施(2 科目程度)</p> <p>現在実施されている教員免許状更新講習の中から、必修や選択必修など全員が受講しなければならないものについて、web 教材による自学と遠隔もしくは直接対面を組み合わせることによって学びの質を向上させることを目的にコンテンツの開発を行う。</p> <p>(3) 新たなコンテンツ開発(5 科目程度)とオンライン講義システムの運用</p> <p>初任者研修向けコンテンツ及び管理職(次期管理職も含む)向けコンテンツの開発を行い、試行的に実施する。</p> <p>当研修を履修するものはオンライン受講生(科目等履修生)として ID の発行手続きを行い、本学の「学習支援システム」(Moodle)へログインを行った上で、オンデマンド講義を受講する。こま</p>
--

では他大学でも従来から行っているケースもあるといえるが、本学の特色としては、各回の授業内容に応じて対面またはテレビ会議システムでのリアルタイム授業を行うことにある。なお、「対面（個別指導を含む）＋オンデマンドでの講義受講＋受講者同士の交流時間」の配分については、いくつかのパターンを試行し、その学習効果や受講者のニーズも検証する。

(4) 履修証明プログラムの拡大(新規2プログラム・再編1プログラム)

(1)(2)で開発したコンテンツから科目群を構成し、履修証明プログラムを拡大する。具体的には「初任者や若手教員を指導・支援する教員向け」と「新任管理職（教頭等）向け」の履修証明プログラムを開発する。また既に実施している初任者研修における履修証明プログラムを再編し、多様な学習方法を取り入れて再編する。

(5) 学習環境(Wi-Fi等環境も含む)の実態把握及び検証

(1)(2)(3)を通じて学習者によるコンテンツや学習方法の評価とともに、PCやiPadの使用、会議システムの使用、共有ファイルの使用など利用上の課題や時間の確保等について実態の把握とともに検証を行い、改善を図る。検討委員会では、本システムの利用によって教員の研修機会を拡大することで、教育委員会と連携した「ラーニングポイント制」の導入を可能にすることができないか検討を進める。

なお、当研修をオンデマンド受講したりリアルタイムで大学教員からの指導を受けたりするにあたり、研修環境、ネットワークアクセス状況、周辺機器等の整備状況について調査する。勤務校での受講を想定した場合、自宅からのアクセスを想定した場合等の研修状況を調査し、受講者の満足度や不満を聞き取り、効果的且つ円滑な受講を実現するための学習環境について検討する。

7) 調査研究の実実施計画

7月下旬	コンテンツ開発 WG 検討委員会 WG
8月	検討委員会 コンテンツ開発 WG
9月	コンテンツの試行開始(第1回)
10月	コンテンツ開発 WG
11月	コンテンツ利用者アンケート実施(第1回) コンテンツ開発 WG 検討委員会 WG
12月	コンテンツの試行開始(第2回)
1月	コンテンツ開発 WG
2月	コンテンツ利用者アンケート実施(第2回) コンテンツ開発 WG 検討委員会 WG
3月	検討委員会

## 8) 過去の調査研究実績

### (1) 平成 25・26 年度「初任者研修高度化モデル事業」

和歌山大学は、和歌山県教育委員会及び和歌山市教育委員会と当該事業を行い、平成 27 年度にも事業を継承し 3 年間でのべ 86 名の教員を支援した。

### (2) 平成 28 年度「教職大学院と連動した初任者研修プログラム」

#### 「教職大学院と連携したメンター制による校内研修支援プログラム」

ともに「総合的な教師力向上のための調査研究事業」を受託したものである。初任者研修を専修免許状取得につながる「履修証明プログラム」と、初任者の指導を通して連携協力校の教職員のメンターとしての資質能力向上を図るものである。

### (3) 平成 29 年度「教職大学院と連動した初任者研修履修証明プログラム」

#### 「初任者等に対する校内での学び支援力向上プログラム」

ともに平成 29 年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」を受託したものである。初任者研修履修証明プログラムは 2 年目の受講生が専修免許状に必要な単位を取得した。学び支援力向上プログラムでは、平成 28 年度の事業に加え、初任者の指導にあたる拠点校指導教員や校内指導教員の初任者への指導力向上を図るプログラムの開発に取組み、平成 29 年度はワークショップを開催した。

### (4) 平成 30 年度「継続的な学びにつながる初任者研修履修証明プログラム」

#### 「初任者等に対する校内学び支援力向上プログラム」

ともに平成 30 年度「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」を受託したものである。初任者研修履修証明プログラムでは内容を精選するとともに、1 年目と 2 年目のバランスを見直すなど行い、教員育成指標との連動と働き方改革の観点から見直しを図った。学び支援力向上プログラムでは、重点を拠点校指導教員や校内指導教員の初任者への指導力向上を図るプログラムの開発に移し、ワークショップの試行的開催を通して改善を行い、当該対象者に 1 年間を通じて実施するプログラムを完成させた。

### (5) 令和元年度「教員育成指標に連動した体系的現職教員研修プログラム開発」

これまで開発してきた現職研修プログラムや知見をもとに、教育委員会と有機的連携を図りながら、大学の人的・知的・物的資源を活用し、教員育成指標に連動した体系的で、学びの軌跡が可視化・実感できる研修プログラムを開発し、教育委員会や教師に提供した。具体的には、育成指標に基づき「拠点校指導教員・校内指導教員向け研修プログラム」や「校内研修改善プログラム」、さらに「授業実践力向上プログラム」や「マネジメント力向上プログラム」などを開発し、『出前講座』リーフレットにまとめ教育委員会等に広報・周知を行い、要請のあった教育委員会及び学校において実施した。平成 28 年度より継続している「初任者研修履修証明プログラム」の内容・方法を再検討し、令和元年度は新規に小学校 7 名、中学校 3 名を対象として実施し予定の単位を取得させ、2 年目受講者 10 名については専修免許状取得に必要な単位を取得させることができた。和歌山県教育センター学びの丘との共同研究会及び和歌山市教育研究所との検討委員会により、育成指標に基づく各資質・能力の積み重ねに即した体系的な研修プログラム（教員育成指標に基づいた研修一覧表：「教員向け」、「校長・教頭及び主任等向け」）を構想した。これらの成果は「教員育成指標に連動した体系的現職教員プログラム開発 成果報告書」冊子にまとめ公開した。

【テーマ4】 団体名 和歌山大学  
「ブレンディッド・ラーニングによる教員研修履修証明プログラムの開発」

### 目的・概要等

オンライン同時双方向会議システム利用による遠隔授業、対面授業、web教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法を内容に応じてミックスの最適化を図り履修証明プログラムを開発する。これにより和歌山県の地理的課題を克服し移動時間を節約することができるとともに、e-learningのみでは維持することが難しい学習意欲や共学の一体感を向上させ、さらに学習者の学びのネットワークの構築に寄与する。研究成果については教員免許更新講習にも活かす。効果的で質の高い学びを初任者からミドル・リーダー、管理職、子育て中の教師にも実現する。

### 実施方法等



### 成果目標等

- (1) 既開発した現職研修のコンテンツをオンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業・対面授業・web教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法のミックスの最適化を図った科目に再構成(3科目程度)
- (2) 教員免許更新講習の中から学習方法のミックスの最適化を図ることで質的に向上する講習を選択・開発・試験的实施(2科目程度)
- (3) 研修内容に応じた学習方法のミックスの最適化を図った新たなコンテンツ開発(5科目程度)
- (4) 履修証明プログラムの拡大(2プログラム)
- (5) 学習環境(Wi-Fi等環境も含む)の実態把握及び検証

## 経費計画

費目	種別		内訳		
	種別小計	摘要	積算	金額	
設備 備品費	設備備品費	0円			
	設備備品費 小計	0円			
人件費	人件費	0円			
	人件費 小計	0円			
事業 活動費	諸謝金	500,000円	コンテンツ作成・編集/ウェブサイト及び パンフレットデザイン	1,000*150時間(1日6時間25日間 勤務)	150,000円
			事業事務・講義配信システム管理	1,000*250時間(1日5時間50日間 勤務)	250,000円
			収録講義のための外部講師謝金	5,000円*4h*4名	80,000円
			当開発コンテンツ・事業等の評価者への謝 金	5,000円*2h*2名	20,000円
	旅費	51,360円	学びの丘出張旅費	8,560円*3名*2回	51,360円
	会議費	0円			
	通信運搬費	85,200円	県内各校への当事業広報・案内リーフレット 郵送料	390円*関係諸機関30施設	11,700円
			成果冊子郵送料	210円*県内小・中・高・支援学 校・教育委員会350施設	73,500円
	印刷製本費	206,000円	県内向け広報チラシ(リーフレットタイプ)	8.6円*10,000枚(県内教員向け 広報物)	86,000円
			事業成果報告書印刷費用	1,000円*120冊	120,000円
	借損料	0円			
	雑務費	0円			
	消耗品費	103,000円	スピーカーフォン(テレビ会議貸し出し用)	23,000円*2	46,000円
			ウェブカメラ(テレビ会議貸し出し用)	6,000円*2	12,000円
			照明(テレビ会議貸し出し用)	3,000円*2	6,000円
トナー・インク			10,000円*3本	30,000円	
A4用紙			3,000円*3箱	9,000円	
消費税 相当額	0円				
事業活動費 小計	945,560円				
一般 管理費	一般管理費	94,556円	③10%		
再委託費	再委託費	0円	(再委託にかかる経費を記入する。)		
	合計	1,040,116円			

# ブレンディッド・ラーニングを用いた教員研修(1)

## — その意義と背景 —

### A Study of the Blended Learning in in-service training of school teachers

添田久美子 寺川剛央

SOEDA kumiko TERAKAWA takao

(和歌山大学大学院教育学研究科教職開発専攻)

抄録：本学は、2016年度の教職大学院開設と同時に、初任者研修履修証明プログラムの開発・実施・改善、さらに校内研修支援を通じた学びのサイクル生成という2つの教員研修事業に取り組んできた。2019年度には和歌山県の育成指標に対応した「体系的な研修プログラム」を開発し、「出前講座」として実施した。現在、「学び方改革」のために教員の研修がより求められ、同時に働き方改革が進められる状況であり、これに対応するものとして2020年度は本学教職大学院で、「ブレンディッド・ラーニング」の手法を用いた教員研修を試験的に実施している。本稿は、その導入の背景及び事業の概要についての報告である。

キーワード：ブレンディッド・ラーニング、教員研修、最適化

#### 1. 課題の認識

本学は、2016年度に教職大学院の開設と同時に教員研修の改善に取り組んできた。取り組みの柱のひとつは、和歌山市教育委員会と連携した初任者研修における履修証明プログラムを開発・実施・改善、もう一つは校内研修支援を通じて学びのサイクルの生成である。これらの成果をもとに、2019年度には、拠点校指導教員及び校内指導教員研修のプログラムを開発・実施するなど、育成指標に対応した体系的な研修プログラムの開発を行い、「出前講座」として研修を実施した。

このように現職研修に取り組む中で、和歌山県の学校現場でも、教員も管理職も研修の重要性への認識は高まってきているが、「教員の多忙化」の中で時間の確保に困難を感じており、とくに学校を離れることの困難さは大きいものがある。そうした実態を捉えて、和歌山県教育委員会では和歌山県教育センター学びの丘の「きのくにeラーニング」などでe-learningに活用できる動画配信システムやコンテンツの開発を進めてきた。しかしながら、そうした方法では学習意欲を維持することや双方向の学習を成立させることに課題が残っている。

そこで、これまでの本学の取り組みや成果、また大学

の人的・物的資源を活用し、オンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業、対面授業、web教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法を内容に応じてミックスし、最適化を図ったブレンディッド・ラーニングによる授業展開を開発し、その科目群から履修証明プログラムを構成することをゴールとして取り組むこととした。

これにより、次のようなメリットがあると考えられる。和歌山県の地理的課題でもあった「移動」については、その回数を減少させることができ、参加者の増加、とりわけ、これまで学校現場を離れることが難しかった管理職やミドル・リーダーも参加することが可能になる。

また、オンラインによる遠隔授業によって物理的距離を超えた「つながり」の維持が容易になるとともに、従前のワークショップやロールプレイング等を直接対面授業で行うことで実感の共有が保持できる。これらの特性を活かして学びを展開することにより、学習者の意欲や共学の一体感を向上させ、さらに学習者の学びのネットワークの構築に寄与する。

表 1 初任者研修におけるタブレット型コンピュータ等や遠隔システムを活用した一方向型または双方向型の研修の実施<sup>1)</sup>

	同じ場所や建物内において、タブレット型コンピュータ等を活用した双方向型の研修を実施	遠隔地間を遠隔システムによってつなぎ、一方向型または双方向型の研修を実施（既存の配信動画等の活用のみは除く。）
都道府県 (47)	4教委 ( 8.5% )	3教委 ( 6.4% )
指定都市 (20)	2 ( 10.0% )	0 ( 0.0% )
中核市 (53)	5 ( 9.4% )	0 ( 0.0% )
複数の自治体による 広域連携地区 (1)	1	0
総 計 (121)	12 ( 9.9% )	3 ( 2.5% )

表 2 中堅教諭等資質向上研修におけるタブレット型コンピュータ等や遠隔システムを活用した一方向型または双方向型の研修の実施<sup>2)</sup>

	同じ場所や建物内において、タブレット型コンピュータ等を活用した双方向型の研修を実施	遠隔地間を遠隔システムによってつなぎ、一方向型または双方向型の研修を実施（既存の配信動画等の活用のみは除く。）
都道府県 (47)	4教委 ( 8.5% )	2教委 ( 4.3% )
指定都市 (20)	0 ( 0.0% )	0 ( 0.0% )
中核市 (53)	2 ( 3.8% )	0 ( 0.0% )
複数の自治体による 広域連携地区 (1)	0	0
総 計 (121)	6 ( 5.0% )	2 ( 1.7% )

表 3 教員の職能開発への参加の障壁<sup>3)</sup>

		職能開発の日程が自分の仕事のスケジュールと合わない	家庭でやらないことあるため時間が割けない	職能開発は費用が高すぎる	雇用者からの支援が不足している	職能開発への参加に対するインセンティブがない	自分に適した職能開発がない	参加要件を満たしていない
中学校	日本	87.0%	67.1%	60.7%	57.3%	46.3%	38.1%	30.7%
	前回調査	86.4%	62.4%	62.1%	59.5%	38.0%	37.3%	26.7%
	参加平均	52.5%	37.6%	42.9%	32.4%	48.6%	36.3%	12.0%
小学校	日本	84.3%	71.1%	61.1%	56.9%	43.6%	37.4%	30.6%

## 2. 教員研修の現状

### 2.1 ネット環境を利用した現職研修の実態

表1、2は、文部科学省による教員研修実施状況調査(2018年度)からの抜粋である。法定研修である初任者研修と中堅教諭等資質向上研修について、タブレット利用は10%程度で、遠距離システムを利用については、2%台にとどまっている。「オンライン上での講座やセミナー」への参加は、OECD 国際教員指導環境調査(2018)においても中学校教員で参加国平均 37.9%に対して9.4%と最も低い。小学校教員でも8.1%で最下位から2番目の低さである。ただし、校長については、中学校 15.9%、小学校では10.1%となり、順位は若干改善する<sup>4)</sup>。

### 2.2 教員研修参加の障壁

OECD 国際教員指導環境調査(2018)によると、表3のように日本の教員が研修参加の障壁として「日程」、「家庭」、「費用」、「雇用者からの支援」が半数を超えている。参加国との差が最も開いているのは「日程」である。当該調査では「教員の仕事時間」についても調査しており、小中ともに参加国で最長一週間あたり中学校 56.0 時間、小学校 54.4 時間である<sup>5)</sup>。学校での仕事時間が長いことと研修の障害として「日程が合わない」や「家庭でやらなくてはならないことがある」と回答していることとの関係性を考えてみるべきではないだろうか。学習指導要領が改訂され「学び方改革」のために教師の研修がより求められている一方で、働き方改革が進められようとしている。どちらも教師にとって重要なことであるとすれば、時間を効率よく使って効果的な研修をどのように行うか、が検討されるべきである。

### 2.3 資格取得のための研修

当該調査では、「職能開発の形態」についても調査している。その項目に「公式な資格取得プログラム」がある。中学校教員では6.2%(参加国平均 17.9%)、小学校教員では7.5%、校長では0.2%(参加国平均 17.9%)であり、最下位群に属する<sup>6)</sup>。日本の場合、免許の上申制度をとっていないことに起因すると考えられる。

このことは、当該調査の「教員の最終学歴」にも表れており、「修士レベル」の学歴を有する教員は、中学校教員では10.6%(参加国平均 40.7%)、小学校教員では5.5%、中学校長では11.7%(参加国平均 57.3%)、小学校長では10.1%である。校長については、修士レベル以上の学歴を資格要件としている国もあることから、中学校長で9割を超える国が7か国、小学校長では、8割を超える国が韓国と台湾の2か国ある。しかし日本の中学校長では、1桁であるブラジル、ベトナム、カザフスタン、サウジアラビア、に続く下位で

ある<sup>7)</sup>。

日本では、教員の修士レベル化や免許の上申(修士レベルの学位を基礎資格とするなど)を求める動きがあったが、教職大学院を創設・拡大する中で、「教職大学院の研修機能強化」が強く求められるようになっていく。2015年12月の中教審答申には、「教職大学院については、(中略)高度専門職業人としての教員養成モデルから、その中心に位置付けることとし、現職教員の再教育の場としての役割に重点を置き」、「教職大学院について、履修証明制度や科目等履修制度の活用等により現職教員が学びやすい仕組みのための環境を整備する」ことや「管理職コースの設置」が求められている<sup>8)</sup>。免許の上申や校長職の資格要件がない中で、さらに多忙化による働き方改革が迫られている現状において、どのようなシステムがよりよい教員研修を創り出すことができるのか、本学においても教職大学院設置以来、常に検討を加えてきたところである<sup>9)</sup>。

## 3. ブレンディッド・ラーニング

### 3.1 教員研修への手法導入の背景

本学教職大学院は、初任者研修を履修証明プログラム化し、2年間受講することによって、専修免許状に必要な15単位<sup>10)</sup>を取得可能にした。初任者研修では、月1回程度の校外で集合研修という形態の研修が行われるのが一般的である。受講方法は、この集合研修を教職大学院で行うほか、夏季休業中の集中講義、月2回程度の勤務校への訪問指導を組み合わせた。しかし、限られた日程の中で1科目15コマの受講時間を確保することは非常に困難であり、また初任者にとってハードなスケジュールとならざるを得ない。先述したように教員研修においてオンラインを活用した研修はほとんど受け入れられていない状況のなか、従来の対面型授業の方法ではこれ以上の効率化は困難である。

しかし、コロナ禍で2020年4月からの遠隔授業が小学校から大学に至るまで早急に広まっていった。このことにより、学校現場や教師だけでなく、教員養成に関わる大学教員のオンラインへの認識に変化が生じた。実際に本学教職大学院でも、5月に授業を再開したが、前期授業のすべてをオンラインまたはオンデマンドで実施した。当初、授業実践に関わる授業などの担当者からは、「対面でなければ理解できない、指導できない」といった意見が出された。しかしオンライン授業の必要に迫られる中で、既録画の授業の編集などによって教材作成・配信し、テレビ会議システムを用いた同時双方向型授業などを組み合わせ、さまざまな科目をオンラインで実施した。その経験からわれわれ大学教員の「実践的資質能力の向上のための科目はオンラインに適さない」との認識が、1つの科目のなかで、オンラインに適する内容、オンラインでも可

能な内容、オンラインに適さない内容があるとの認識に変化したのである。

初任者研修における最大の課題であった時間の確保と効率的な学びに応えるためには、教員研修にブレンディッド・ラーニングの手法を取り入れることがその解決につながるのではないか、その最適化を実践的に研究する必要があるのではないか、という考えに至った。

### 3.2 オンライン学習の課題

そこで、まずオンライン学習における課題についてみる。現職教員に対する eLearning プログラムの開発を行っている益子は、オンライン学習においては、「一人で学習している感覚が大きくなると学習が阻害されること」、それには「『存在感』が重要である」ことを指摘している。本実践研究において目的としている「学習者の意欲と共学の一体感」は益子のいうところの「存在感」とは共通する観点であるといえよう。

さらに益子は、Rourke と Swan によるオンライン学習における存在感とインタラクションの関係の整理を引いて、「社会的存在感(他の学習者とのインタラクション)」「認知的存在感(コンテンツとのインタラクション)」「教授者の存在感(インストラクタとのインタラクション)」の3種類の「存在感」を学習者が形成できるように「メディアの組み合わせや教育方法を提供することが重要」であることに言及し、そのためには、「対話支援」、「コンテンツ選択」、「雰囲気設定」の考慮が必要であるとしている<sup>11)</sup>。

本実践研究では「コンテンツ選択」については、3.1 で前述したように、オンデマンドでの自己学習に向く内容を選択して行うため、よりオンデマンドに適するように形態を工夫する等の点は残されているが、「コンテンツ選択」についての考慮はすでに組み込まれている。そこで、「対話支援」と「雰囲気設定」についてどのように考慮するべきか、が課題となる。その考慮が今回の実践研究における「対面授業をどのように設計・配置するのか」にあたるブレンディッドの「最適化」である。

### 3.3 ブレンディッド・ラーニングのモデル分類

学習環境・方法のどのようなブレンディッドがあるのか。ホーンによるとブレンデッド・ラーニングのモデルとして、ローテーション、フレックス、アラカルト、通信制教育の大きく4つが示されている。さらに、ローテーション内の小分類として、ステーション・ローテーション、ラボ・ローテーション、反転授業、個別ローテーションに分けられている<sup>12)</sup>。

本実践研究では、オンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業・対面授業・web 教材による自学、グループ学習やリサーチといった授業展開を予定

している。オンデマンド型授業の時には、受講者が各自の都合に合わせて学習することができる。基本的には、ステーション・ローテーションにあたるを考える。

## 4. プレンティッド・ラーニング手法による科目開発

### 4.1 研究計画

本実践的研究計画は以下の通りである。

【目的】 オンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業・対面授業・web 教材による自学、グループ学習やリサーチといった方法の組み合わせの最適化を図った科目群を開発する。

【対象科目】 既開発した現職研修のコンテンツ、教員免許状更新講習科目、新たなコンテンツ開発

【検証方法】 開発した科目について、公募した県内公立学校の教員による試験的受講を行い、アンケートを実施し、学習状況の実態把握を行う。

### 4.2 最適化実験計画

最適化のフレームワークを変えて行うため、科目の試験的受講の実施は、2期に分けて行うこととした。第1期の実施科目は、「生徒指導力・学級経営UP講座」「若手教員への指導力UP講座」、「道徳教育」、「GIGA スクールにおける授業実践「導入」講座」、「新学習指導要領に対応した新しい道徳授業実践講座」、「学校の安全UP講座」の5講座とした。

5講座は、web 教材によるオンデマンドでの自己学習とオンライン同時双方向会議システムを利用した遠隔授業や対面授業を組み合わせ、5コマとして設計した。

第1期の実施では、特に次の2点が検証の中心となる。ひとつは、オンデマンドによる学習については、本時の目標や学ぶべき事項・課題の提示、及びその理解度の確認が重要となる。その対応として、遠隔授業や対面授業をどのように設計・配置するのか。2つめは、教員研修では、受講者の課題の共有や成果の共有が非常に重要となることから、その場をどのように設けるのか。

第2期については、第1期の結果を受けて変更することがあるが、受講者同士のグループ学習を取り入れたものを予定している。

## 註

1) 「平成30年度における教員研修実施状況調査結果について」令和2年1月21日 報道発表 文部科学省

- 2) 同上
- 3) 国立教育政策研究所 2019 年「教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 報告書－学び続ける教員と校長－のポイント」  
[https://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/talis/pdf/talis2018\\_points.pdf](https://www.nier.go.jp/kenkyukikaku/talis/pdf/talis2018_points.pdf)。筆者による再作成
- 4) 国立教育政策研究所 2019 年「教員環境の国際比較：OECD 国際教員指導環境調査 (TALIS) 2018 報告書－学び続ける教員と校長－」ぎょうせい pp214-219
- 5) 国立教育政策研究所 2019 年、前掲書
- 6) 同上
- 7) 同上、pp.166-170
- 8) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」平成 27 年 12 月
- 9) 本教職大学院における教員研修に関わる取組みは以下である。

【平成 28 年度】「教職大学院と連動した初任者研修プログラム」、「教職大学院と連携したメンター制による校内研修支援プログラム」

【平成 29 年度】「教職大学院と連動した初任者研修履修証明プログラム」、「初任者等に対する校内での学び支援力向上プログラム」

【平成 30 年度】「継続的な学びにつながる初任者研修履修証明プログラム」、「初任者等に対する校内学び支援力向上プログラム」

【令和元年度】「教員育成指標に連動した体系的現職教員研修プログラム開発」

なお、初任者研修等については、和歌山大学教職大学院紀要『学校教育実践研究』No.1 2016 年。特集論文に詳細。

- 10) 教育職員免許法 別表第 3
- 11) 益子典文「現職教員のための eLearning プログラムの開発」木原俊行等編著、教育工学選書Ⅱ10『教育工学的アプローチによる教師教育』ミネルヴァ書房 2016 年、pp193-195。
- 12) マイケル・B・ホーン他『ブレンディッド・ラーニングの衝撃』教育開発研究 2017 年 3 月、pp44-71

なお、本研究は「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」委託を受けたものである。